

## 事項二 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件

附 独露両国間ラバロ協定關係一件

一八〇 二月二十五日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英国側ニ於テ作成シタル賠償ニ関スルカンヌ

案ノ各条要旨報告ノ件

第一四九号

(二月二十七日接受)

賠実第二五七号

貴電第九四号ニ関シ本「カンヌ」案ハ「カンヌ」第二八号賠償経過其三所報ノ通り英国側ニ於テ倫敦案ヲ参酌シテ作成シ各国側ニ内示シタルモノナリ

第八条ハ賠実第二三三号第五ニ当リ其要旨左ノ通り

一九二一年五月乃至一九二二年四月ノ占領軍実費及ヒ一九二二年五月乃至十二月ノ定額ハ実物弁済(賠償回収法ノ收入ヲ包含ス)ヲ以テ之ニ充当ス

一九二二年五月以降ノ占領軍費用ニ関シテハ米国軍隊ノ費用及一九一九年六月二十八日協定第八条乃至第十二条ノ經費ヲ除キ各其国ノ貨幣ヲ以テ一定ノ日額ヲ定ム

一九二三年 一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇金貨馬克

一九二四年 一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇金貨馬克

ヲ超ニヘカラス

(一)仏国ハ一九二四年末ニ於ケル延期債務総額ヲ一九二六年五月一日開始ノ十回ノ年金ニ均分シ各年其以後受領額ト相殺シテ決済ス本協定ノ実施更ニ延長セラレサル時ハ一九二四年以後ノ仏国受領額ノ右年金ト加算シテ其年ニ於ケル独逸支払額ニ対スル仏国ノ分ケ前ヲ超ユヘカラス

仏国外ノ国ハ賠償委員会ノ同意ヲ得テ「ウィスバーデン」協約類似ノ協約ヲ締結スルコトヲ得但シ一九二二年ハ各国現金ヲ吐キ出サス但シ第一五条其他聯合國間ノ協定ニ從ヒ一九二二年以後ノ賠償受領額及ヒ之ニ対スル一九二三年一月一日以降年五分ノ利子額ハ一九二三年以降ノ各国賠償受領割合ヲ定ムルニ付参酌セラルヘシ

第一七条石炭引渡ニ関シ条約第八編第五附属書第六項(イ)号ヲ一切ノ場合ニ適用ストノ仏独間協定ニ依リ仏国借記額ヲ計算スル事ヲ承認ス

若シ賠償委員会カ是ニ異ナリタル評価方法ヲ執ル時ハ其ノ差額ハ大蔵大臣附属協定ニ依リテ決済ス可シ

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一八〇

右月額ノ決定ニ付テハ英国八五、〇〇〇仏国九〇、四〇〇白国一九、三〇〇ノ兵数ヲ基準トシ且ツ英軍一日一人当リ二金貨馬克ヲ各国ニ配当ス但シ貨幣換算率ハ一九二一年十二月平均為替相場ニ依ル一九二三年一月以降ハ独逸政府月毎ニ支払フヘシ

右分配額ハ兵数ノ變動ニ伴ヒ更ニ協定ヲ以テ修正スルモノトス

兵数減少ノ場合ニ於テモ全額ノ費用ヲ償還スルニ非レハ右定額ヲ變更セサルヘシ關係政府ハ前記協定第八条乃至第十二条ノ經費ニ付紙幣馬克ヲ以テ毎年一定額ヲ定ムヘシ

特別ノ軍事行動ヲ取リタル場合ノ負担額ハ右協定以外トス第十五条ハ賠実第二三五号第三第四ニ当リ聯合國政府ハ左ノ条件ノ下ニ三年間「ウィスバーデン」協約実施ニ同意ス(一)仏国ノ条約第八編第二乃至第六附属書及ヒ「ウィスバーデン」協約ニ依ル実物受領總計ハ

一九二二年 一、二五〇、〇〇〇、〇〇〇金貨馬克

第一八条賠実第二三五号第六ニ当ル尚「カンヌ」第一六号第二八号参照

左ノ条件ノ下ニ大蔵大臣協定ヲA、客年支払済ミノ拾億金貨馬克ト今年支払ノ七億金貨馬克トヲ合計シB、右金額ヨリ五億金貨馬克ヲ其ノ他一九二一年四月以前ノ資本勘定ニ入ル可キ現金收入ヲ一九二一年四月以前ノ占領軍費用トシテ英国ニ与フ不足額アラハ白国優先権充当後最初ノ現金支払ヨリ償還セラル可シ仏国ハ一九二一年四月以前ノ占領軍費用トシテ一億四千万金貨馬克ヲ受領シ尚不足額アラハ最初ノ現金支払中ヨリ白国優先権ヘ伊国占領軍費用充当ノ後ニ償還セラル可シ右ノ残余ハ是ヲ白国優先権ニ充当スC、「ザール」鉱山ヲ聯合國間ノ計算ニ於テ參億金貨馬克ト評価シ一九二二年一月一日受領ノモノトシテ仏国ニ借記ス若シ賠償委員会ノ評価格是ヲ超ユル時ハ其ノ差額ヲC証券ヲ以テ決済ス

D、白国ハ一九二一年及一九二二年各国ノ受領スル実物弁済及賠償回収法ノ收入ニ対シテ其ノ優先権ヲ主張セサル可シ

第一九条大蔵大臣協定第五条中ノ起草誤謬タル「第二条

一一一

b」ヲ「第二条」ト改ム

一八一 三月二十九日 在独国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会ノ賠償支払額決定ニ関スルウィル

ト首相ノ議會演說要旨報告ノ件

第七二号

（四月一日接受）

往電第六九号ニ関シ

爾来政府ハ連日閣議ヲ催シ又二十七日ニハ一方各聯邦首相ト他方議會各政党領袖ト協議ヲ遂ゲタル結果二十八日議會ニ於テ With ハ大要左ノ通りノ演說ヲ為セリ引續キ行ハレツツアル各党領袖ノ演說ニ徴スルモ議會ノ多数ハ元ニ賛成スベキ模様ナリ

(一)賠償委員会今次決定ノ支払額ハ從來ノ成行キニ徴シ多少覺悟シタル所ナルモ右決定附隨条件中新ニ六百億ヲ租税ヨリ捻出スルノ件ハ租税妥協ガ辛ジテ成立シタル今日内政關係ヨリ見ルモ將又国民担税力ニ顧ルモ到底不可能ナリ  
(二)又右条件ノ一タル租税附加徴収ニ関スル監督方法ニ就テハ尚交渉ノ余地アリトスルモ右監督ガ吾人ノ既ニ承諾シタル報告義務以上ニ出ヅルニ於テハ国家ノ主權及威信ニ鑑ミ

雖モ吾人ハ右ノ暗澹タル形勢ニ対シ未ダ全ク失望スルモノニ非ズ

(三)蓋シ旬日ニシテ「ゼノア」會議開催セラル可キ処同會議ノ目的タル中欧並ニ露西亞ノ復興ハ独逸ガ經濟的ニ健全ナルニ非ザレバ到底不可能ナリ故ニ聯合國ガ賠償委員會ヲシテ「ゼノア」會議ノ精神ニ聽從セシムルノ必要ヲ認ムルニ非ザレバ同會議ハ未ダ開カザルニ先立チ失敗ニ終ルモノト言ハザルベカラズ

在欧洲各大使ヘ郵送シ在米大使ヘ転電セリ

一八二 五月十八日 在独国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

独逸ノ國際的起債問題ノ現状報告ノ件

第一二五号

（五月二十一日接受）

貴電第三七号ニ関シ

英米大使及ビ独逸政治家銀行家等ノ會談ヲ綜合約說スレバ独逸國際的起債問題ノ現状左ノ如シ

一、独逸政府ハ三月二十一日附賠償委員會ノ照会ニ対シ國際的起債ニ依ラザレバ其要求ヲ充スコト困難ナル旨五月九日附ヲ以テ回答セリ

一一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一八二

主義上之ニ承諾スル事難シ

(一)尤モ右条件中吾人ノ傾聴ヲ強ウベキモノ無キニ非ズ例ヘバ國費ノ節約資本逃竄ノ防止 Reichsbank autonomy 等ハ之ガ実行ニハ幾多ノ困難件フベキモ政府ハ之ニ努力スルニ吝ナラズ

(二)要スルニ賠償問題ノ解決ハ懸リテ内外債ノ成立ニアリ強制公債十億ノ外ニ内債募集ノ余地アリヤハ尚考究ヲ要スルモ結局外債募集ト相俟ツテ行フニ非ザレバ如上ノ目的ヲ達シ難シ

依ツテ政府ハ近ク外債募集ノ交渉ヲ開始スル積リナルモ他方之ガ成功ノ為メニハ「ヴェルサイユ」條約ニ依ル障礙除去セラルルヲ要ス

(三)政府ハ賠償委員會ニ回答ヲ發スルニ先立チ尚ホ充分同委員會決定ヲ考究ス可キモ政府如上ノ方針ニハ何等變更ナカル可シ

(四)畢竟スルニ賠償委員會今次ノ決議ハ賠償支払ニ関スル独逸政府從來ノ苦心ヲ無視シ徒ニ独逸ノ財政計画ヲ其ノ根本ヨリ覆スモノニシテ独逸政府ガ London ultimatum 受諾以來取り来レル賠償義務履行行政策ヲ危殆ニ瀕セシメタリト

二、右独逸政府ノ主張ガ事實ニ於テ独逸ノ現状ト合致スルコトハ一般ノ認ムル所ナリ

三、於是独逸ハ一方「ウィードフェルド」ヲ實業家中ヨリ抜キ駐米大使ニ任スル等百方方策ヲ講ジ各国就中米國資本家ニ対スル運動ヲ激励スルト共ニ他方「ベルグマン」「ヘルメス」等ヲ巴里ニ派遣シ賠償委員トノ交渉ヲ重ネツツアリ

四、賠償委員會ハ本問題研究ノ為メ特別委員ヲ任命シ「ドラクロア」ハ同特別委員長ノ名ヲ以テ巴里ニ「ローン、コンファレンス」ヲ召集スルコトニ決シ米國資本家ノ賛同ヲ求メタルニ「モルガン」其代表トシテ之ニ応ズルコトト成リ米國政府ハ同人ノ参加ヲ認許シタリ

五、米國ハ問題ガ純然タル經濟財政ニ局限セラルル以上歐洲復興ノ協議ニ加ハルノ意嚮ハ予テ有シタル所ナリ

六、米國ノ「フェデラル、レザーヴ、バンク」ハ現ニ何レノ途ニカ有利ニ利用セラレザル可ラザル三、四億弗ノ遊金ヲ有スルト同時ニ其國產ノ為ニ市場ヲ求メツツアルアリテ之ガ解決ハ歐洲ニ向テ資本ヲ供給スル外ナキ現状ナリ

七、右ノ事情ナルニ付歐洲ニ於テ政治問題ニ關係ナク相当

確實ナル放資ノ途アラバ之ニ応ジテ支障ナキ旨米國政府ハ「モルガン」ニ含メタルナル可シ

八、併シ其ノ放資ヲ確實ニスル条件ニ就テハ米國政府ハ何等指示スル所ナシ、之レ同政府ハ本問題ニ深ク干涉スルコトヲ好マザルガ故ナリ、但愈協議纏リ米國政府許否ヲ決セザル可ラザル場合ニ至ラバ其ノ条件ヲ指示スルコトアル可シ

九、独逸ハ此際五年間ノ「ブリーミング、スペース」ヲ得ル為四十億金貨馬克ノ起債ヲ企図ス

十、右金額中ヨリ最初二年間ノ利子及起債ニ要スル一切ノ費用竝五億馬克ヲ自分用トシテ控除シ残額ヲ賠償ニ振向ケントノ計画ナリ而シテ独逸ハ右公債ニ對シテハ八分乃至一割ノ利子ヲ払フ覚悟アリ

十一、米國資本家ノ意見ニテハ独逸ハ保障ニ充ツベキ立派ナル材料ヲ有ス即税関、鉄道及「ボタッシュ」其他類似品ノ売上利益等ナリ

十二、新聞報ニ依レバ「モルガン」ガ「ローン、コンファレンス」ニ参加ノ第一条件トシテ明白ヨリ

(i)「ルール」地方不拡張

(ii)占領地不拡張

(iii)占領軍ノ減数

等ヲ要求スベシトアリ

十三、上記ノ新聞報必ズシモ無根ニ非ザルベシト考ヘラルル処尚愈々本談判ニ入ルニ從ヒ更ニ幾多ノ条件提出セラル可シ英大使ノ意見ニテハ其ノ内保障ニ関スル資本家ノ先取權ハ絶対ニ必要ナル可シ

十四、然ルニ救済者ニ對シ之等先取權ヲ譲与スルニハ仏、白ニ於テ強硬ノ反對アル可キモ一方此条件ナクシテ公債成立ノ見込ナキト他方仏白財政窮迫ノ状態ハ必ズシモ「ルール」地方ノ占領ヲ以テ救済シ得ベキニ非ザルガ如シ

十五、独逸内ノ一切ノ独逸財産ハ償金ノ担保トナリ居ル姿ナルヲ以テ独逸ト他國資本家ト聯合國トノ三者間ニ協議一致ノ上ニ非ザレバ對独公債ナルモノ満足ニ成立スルコトナカルベシ從ヒテ独逸ト米國資本家ノミノ協議ニ依リテハ何等成立セザル形勢ナリ

十六、歐洲復興ノ基礎条件トシテ独逸賠償金額ノ確定ノ必要アルハ一般ノ認ムル所ニシテ然モ倫敦最後通牒額ハ独逸ノ能力ヲ超過スト言フコトモ今日ニテハ殆ンド世上公認ノ

事實ナルガ如シ米國大使ハ本使ノ問ニ對シ私見トシテ現在ノ半額ヲ相当トナスト言ヒ英國政治家実業家等ガ右ノ意見ヲ遠慮ナク公言シ居ル態度ニ對シ称賛ノ辭ヲ呈セリサレバ講和条約改正問題ハ孰レノ時カ孰レノ形式ニテ出現スベキモノトシテ米國大使ハ仏國ガ如何ニ強要スレバトテ無キ袖ハ振ラレヌ道理ナレバ結局ハ独逸ノ能力ニ応ジ賠償額ノ削減ヲ見ルベシト樂觀シ英大使モ輿論ノ趨勢今日ノ如ク明瞭トナリタル以上今後ノ解決ハ時ノ力ニ俟ツニ在リト樂觀シ居レリ

十七、五月三十一日ニ関スル予想ハ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ起債談判「ゼノア」、巴里、倫敦ニ於テモ同時ニ行ハレ今ヤ余程ノ進捗ヲナシタルモノノ如ク思ハル米國大使ガ「ゼノア」ヨリ来レル二三米國財政専門家及多數ニ往来スル米國銀行家ヨリ聞キタル所ニ依レバ談判ハ殆ド纏リ五年ノ「ブリーシング・スペース」ガ三年ニ短縮セラレタル由ナリ

兎ニ角「モルガン」ノ参加スベキ「ローン・コンファレンス」開會期ト五月三十一日トノ間ニハ殆ド余日モ無キコト故「ボアンカレ」ハ或ハ遂ニ其脅迫ノ言ヲ實現セシメザ

ル可カラザル羽目ニ至ラザルヤノ懸念ナキニ非ザルモノ一般ノ形勢ハ頗ル沈着ノ模様ナリ万一「ボ」ガ自己ノ言ヲ實現セザル可カラザル場合ニ彼ハ如何ナル手段ニ出ヅベキヤトノ本使ノ問ニ對シ英國大使ハ「ルール」ノ占領ハ敢テ決行シ得ザル可ク或ハ占領地内ニ新税関区域ヲ設置スル位ノコトニ非ザルカト言ヘリ

十八、独逸ノ現状ハ決シテ「ヴァンダーリップ」ガ石井全權ニ語レル如キ危急ノモノニ非ザルコトハ本使ノ英米大使及独逸政治家ト共ニ信ズル所ナルガ兎ニ角當國ノ現状ニ関スル本使ノ觀察ハ遠カラズ更ニ電稟スベシ

米國、「ゼノア」へ転電セリ

一八三 五月二十三日

在仏國松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

仏國ハ對独平和条約ニ基ク權利ノ放棄ヲ承諾  
シタルコトナキ旨首相表明ノ件

第三八一号

(五月二十四日接受)

「ボアンカレ」首相ハ過日英國下院ニ於テ「チェンバレーン」氏ガ千九百二十年仏國ノ「フランクフルト」占領事件後仏國ハ平和条約實施ニ関シ単独行動ヲ取ラザルベキ約

東ヲ為シタル旨答弁シタル趣ノ処右ハ誤解ニ基ク旨前蔵相代議士 Kols 氏ヨリ指摘シタル書面ニ対シ大要左ノ如キ回答ヲ為セリ

仏国政府ハ「ヴェルサイユ」条約ニ基ク何等ノ権利ヲ拋棄スルコトヲ承諾シタルコト無シ「フランクフルト」占領事件後英仏両国政府間ニ意見ノ交換ヲ為シ平和条約実施ニ付聯合國間ノ結束及行動ノ協同ヲ維持スルコト肝要ナルヲ認ムルニ一致シタルハ事実ナルモ當時ノ議論ハ単ニ条約ニ予見セザリシ仏国ノ単独行動ニ関スルモノニ過ギザリキ反之若シ五月三十一日ノ満期日ニ賠償委員会ガ独逸ノ不誠意ヲ確認シ条約第八編第二附録第十七項ニ依リ關係諸国政府ニ通牒スルニ於テハ各国政府ハ同第十八項ニ依リ各自必要ノ制裁ヲ行フノ權利有リ仏国政府ハ聯合國ト協調ヲ保ツノ意嚮ヲ有スルハ既ニ声明セル通ナルモ然モ其ノ一致ヲ見ザル場合ニハ前記第十七項及第十八項ノ權利ヲ確保スヘシ英独ヘ転電セリ

一八四 五月二十八日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独賠償問題ニ関スルウィスバーデン及ベール

定ト相容ルル範圍内ニ於テ実施スヘキ旨ノ協定ヲ締結シ賠償委員会ノ承認ヲ得タルモ之亦議會ニ提出セラレ共ニ決定ヲ見ザル次第ナリ  
英独ヘ転電セリ

一八五 六月十日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ヨリ山東鐵道鈺山ノ日本側借方記  
載ニ付承認ヲ求メ来レルニ付請訓ノ件

第四三九号 (六月十日接受)

賠案第二八六号

山東鐵道鈺山ノ價格貸借諸問題ニ関シテハ本邦側ノ主張モアリ從來仮記帳トシテ取扱ヒ居リタル処今般賠償委員会ニ於テ独リ本件ノミナラズ總テ賠償計算ヲ不確定ナラシムル各種問題ヲ一括シテ解決シ彼我ノ貸借關係ヲ明瞭ニ整理スルコトト決定シ右ニ關聯シテ「山東鐵道鈺山ハ賠償委員会之ヲ評價シ独逸政府モ明瞭ニ承認シタルモノナルヲ以テ直チニ日本ニ借記シ独逸ニ貸記スベシ但シ日本委員ノ同意ヲ留保ス」トナシテ日本側ノ承認ヲ求メ来レリ

右ノ事情ナル上本件ハ既ニ日支間協定成立セル今日ナレバ

メルマン両協定ニ対スル聯合諸国ノ処置振報告ノ件

第三九五号 (五月三十一日接受)

賠案第二八〇号

一、貴電第二八五号(ニ)関シ「ウィスバーデン」協定ト同種協定ノ締結ニ付伊国ハ目下外交談判中ナルモ英白両国ハ之ガ締結ヲナス意思ナシト  
二、同電(ニ)「ペーメルマン」協定ニ付テハ三月以來賠償委員会独逸政府間ニ引続キ交渉シ居ルモ未ダ最終決定ニ至ラズ尤議論ノ纏ラザルハ主トシテ細目ノ点ニアレハ其内兩者ノ一致ヲ見ルニ至ルベク成立ノ場合ニハ白国ハ之ヲ其儘實施スヘク伊国ハ附屬書(B)ノ確定済タル上實施スベキヤ否ヤヲ決スベク英國ハ目下何等ノ見込ナキモ内国工業ヲ妨ゲザル限リ或種物品ニ付之ヲ利用スルニ至ルヤモ知レズト云フ三、仏国現内閣ハ最近「ウィスバーデン」協定ヲ議會ノ審査ニ附シタリ右ハ前内閣員「ルシュール」ニ対スル世上ノ非難多キニ基因スルモノノ如シ尚仏国ハ去ル三月独逸トノ間ニ「ペーメルマン」協定成立ノ場合ニハ之ヲ仏国ニ實施スルコト及「ウィスバーデン」協定モ「ペーメルマン」協

寧ロ右ニ同意スルヲ得策ト思考セラルル処至急何分ノ御回訓ヲ仰グ

一八六 七月十七日 在独国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独国外務省ヨリ賠償金支払猶予方要請ニ関スル英仏伊白各国宛公文写ヲ同省員持參ノ件

第一九二号 (七月十八日接受)

十五日当国外務省ヨリ人ヲ派シ「麻克相場ノ暴落ニ因ル独国財政困難ノ状況ニ基キ曩ニ独国政府ハ賠償委員会ニ対シ一九二二、二三、二四年ニ互リ賠償現金支払ノ「モラトリウム」ヲ求メタルガ其際右ノ外清算手続及「ヴェルサイユ」条約第十編第四款ニ基ク現金支払ニ就キテモ亦關係各國政府ト新ナル取極ヲ為スノ要アルコトヲ申出デタリ依テ独国政府ハ一九二一年六月五日ノ協定ニ依リ独逸側ヨリ毎月二百萬磅ヲ支払フコトナリ居ル処將來之ヲ月額五〇萬磅ヲ超エザル額ニ切下ゲ又条約第十編第四款ニ基ク支払ハ差押独人財産ヲ以テ填補スル外以上「モラトリウム」期間内ハ現金支払ヲ為サザルベキコトヲ提議シ度シ」トノ趣旨ノ英、仏、伊、白各国政府宛十三日附公文写ヲ本使ニ手交

シ且ツ口頭ヲ以テ本件ニ関シ帝國政府ノ好意の考慮ヲ得度旨並賠償委員會帝國代表者ニ於テ右ノ趣旨ニ從ヒ尽力スル様訓令アリ度旨申出デタリ公文写郵送ス右写ト共ニ英仏ヘ郵送セリ

一八七 七月二十五日 内田外務大臣ヨリ  
在独国日置大使宛（電報）

一九二一年六月五日ノ協定ニ関シ問合ノ件

第六七号

貴電第一九二号ニ関シ一九二一年六月五日ノ協定トアルハ如何ナル協定ナルヤ取調ヘ回電アリタシ

一八八 七月二十七日 在独国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

一九二一年六月五日ノ協定ニ関シ回報ノ件

第二〇〇号 （七月二十八日接受）

貴電第六七号ニ関シ

該協定ハ独逸ト英、仏、伊、白、希臘、暹羅トノ間ニ「ヴェルサイユ」条約第二九六条附屬書十一ノ施行細則ヲ定メタルモノニシテ其ノ内ニ右六ヶ国全体ニ対シ清算勘定トシテ独逸側ヨリ毎月二百万磅ヲ支払フコトヲ定メ居レリ原文

写郵送ス

仏ヘ原文写ト共ニ郵送ス

一八九 八月一日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

同盟国間戦争債務相殺問題ニ対スル我方ノ態度ニ付請訓ノ件

第五四五号

（八月三日接受）

同盟国間戦争債務相殺問題ハ我國ニ重要關係有ルニ付曩ニ「ゼノア」會議中本使ヨリ森全權ノ意見ヲ問ヒシ処森氏ノ説ニ依レバ英國ノ我レニ対スル債務ハ參千万円ヲ残スノミニテ之スラ間モナク返還セラル可シトノ事ニ付然ル上ハ本問題ニ付口ヲ出スハ蕨蛇ノ虞有リト思惟シ本使ハ執レニ向ツテモ本件ニ論及スルヲ避ケ来リタリ

然ルニ本件ハ其後漸次進展シテ今ヤ世界政局ノ最大問題トナレリ蓋シ仏国ハ從來「ヴェルサイユ」条約ノ一本槍ニテ押シ苟モ同条約ノ變更ニ涉ルモノニハ強ク反対シ来リタルガ其財政状態ハ長ク斯カル態度ヲ維持スル能ハズ且独逸ノ窮狀暴露ニ連レテ近頃ハ大藏省側主トシテ独逸債務額一部減額ヲ忍ブモ面ノアタリ現金支払ヲ受クル必要有リトシ其

為独逸（脱？）債務一部免除ヲ受ケザル可カラズト主張シ

出シタリ元來債務帳消ノ如キ不体裁ナル問題ハ仏国トシテハ發言ヲ好マズ他方面ヨリ提議ヲ俟チ居リシニ米國ノ態度ハ予想ニ外レ英國ニ於テ好都合ニ發展ノ徵候有リシニ之スラ思ハシカラザルニ至リテ仏國ハ背ニ腹ハカヘラレザル羽目ニ陥リタル觀アリ来ル英仏首相会见ニ於テ本件ハ当面ノ大問題タルニ至レリ

按ズルニ我國ハ仏國ニ対シ戦争債權者タルト同時ニ戦前ヨリノ債務者タリ而モ我債務モ又日露戦争善後処分ノ一端ナレバ戦争債務タル性質ニ於テ彼此相違無シト言ヒ得可ク從ツテ一ヲ消シテ他ヲ活カスノ理由無シト思ハル而モ同盟国間債務相殺ト言ヘバ勢ヒ対露債權ニモ影響ス可キガ故ニ我ハ独リ対仏債權ノミヲ考慮シテ此問題ヲ決スル能ハザル可シ此際本使ハ依然沈黙ノ態度ヲ持ス可キヤ又ハ仏國当局ニ対シ予防手段ヲ講ズ可キヤ財政關係ノ現位地ニ暗キ本使ハ去就ニ迷フニ付何分ノ御訓示ヲ請フ又我戦争債權ハ英、仏、露以外ニハ無之ヤ対外借款中右ニ当ルモノ無キヤ等併セテ御回電アリタシ

在英、独、伊及白大使ヘ郵送セリ

一九〇 八月一日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

賠償問題審議ノ為仏國首相来英ノ件

第四五四号

（八月二日接受）

新聞報道ニ依レバ八月七日「ポアンカレ」来英賠償問題審議ノ筈、伊、白各代表者モ参加ス可ク國際債務問題モ議セラル可キヤ否ヤハ不明ナリ

一九一 八月二日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

独逸政府ヨリノ清算所ノ決済額減額要請ニ対シ

シ仏國政府反対表明ノ件

第五四七号

（八月三日接受）

独逸政府ハ七月十四日附ヲ以テ「ヴェルサイユ」条約第二九六条ニ定ムル清算所ノ決済額月極メ二百万磅（客年六月十日ノ倫敦協定）ヲ財政ノ困難ノ理由ニ依リ今後五十万磅ニ減額スルコトヲ承諾セラレ度旨仏國政府ニ申入レタル処仏國ハ之ニ対シ七月二十六日附ニテ拒絕ノ回答ヲ發シ且末尾ニ十日間ノ期限ヲ定メテ独逸ニ倫敦協定ヲ遵守シ従前ノ通債務履行ノ意思アリヤ否ヤノ回答ヲ求メ独逸カ之ヲ拒絕

スル場合ニハ仏国ハ相当ノ措置ニ出ヅル意嚮ニシテ右ノ措置ハ即時且自動的ニ適用セラルベキ旨ヲ通告セル趣ナリ前記仏国ノ通牒ハ八月一日公表セラレタリ「テキスト」郵送ス英独ヘ郵報セリ

一九二 八月二日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

清算所ノ決済額減額問題ニ関スル仏国ノ覚書

ニ対スル独国政府ノ反駁の通牒報告ノ件

第五四九号

（八月四日接受）

往電第五四七号仏国覚書ニ対シ独逸政府ハ八月一日附ニテ大要左ノ通り仏国ヘ通牒セリ

倫敦協定ハ独逸ト列強トノ間ニ締結セラレタル約定ナルガ故ニ独逸ノ七月十四日附覚書ニ対シ諸關係国ノ意向ヲ承知シタル上ニ非ザレバ独逸政府ハ本件ニ付将来執ルヘキ態度ヲ決定スル事能ハズ仏国政府ノ「アルティメータム」ニ依ル威嚇アルモ目下独逸ハ之以上ニ出ヅル方法無シ条約第二百九十七条ニ基ク仕払ハ賠償仕払ト同一ノ資源ヨリ出ヅルモノニシテ随テ兩者ハ其ノ仕払ニ付同一ノ考量ニ依リ決定セラルベキモノナリ独逸ハ仕払ノ減縮ヲ求ムルニ非ズ単ニ

第四五七号

（八月四日接受）

八月一日当国政府ハ同日附仏蘭西、伊太利、羅馬尼、「セルブ、クロアット」、葡萄牙、希臘宛公文ヲ白書ヲ以テ公表シタルガ其大要左ノ如シ

歐洲各国ノ対英債務問題ハ未ダ正式ニ交渉ノ題目トナリタルコトナク当国政府モ今其全部ニ亘リ之ヲ論議スルノ所存ナキモ昨今ニ於ケル時局ノ情勢ハ如何トモスルコト能ハズ英國ハ各国政府ニ対シ國際債務ノ現状ノ或諸点ニ就キ其意見ヲ披瀝スルノ已ムヲ得ザルニ至レリト冒頭シ歐洲諸国ノ対英債務額概算利息ヲ除クモ三十四億内独逸十四億五千、露国六億五千、聯合与国十三億ニシテ対米英國債務額ハ一九一九年以来ノ利息ヲ合算スルモ約其四分ノ一即チ八億五千ニ過ギズト述べ次デ從來英國政府ハ自國債權ノ元本支払ハ勿論利息ノ請求スラモ之ヲ差控ヘタルガ右ハ決シテ現下ノ時局ヲ輕視シ若クハ甚大ナル犠牲ヲ回避セムトシタルガ為ニアラズ英國政府ハ若シ満足ナル國際の協同一致ノ解決ノ一部ヲ組成スルモノトシテナラバ對聯合与国ノ債權ハ固ヨリ對独賠償債權ヲモ放棄スルノ意思ヲ有ス然ルニ最近ノ情勢ハ斯ノ如キ政策ノ達成ヲ困難ナラシメタリ

二 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一九三

「モラトリーアム」ヲ求ム蓋シ馬克ノ価値ガ英貨ノ百六十分ノ一二下落シタル現状ニ於テ外國ニ対スル仕払ハ極メテ困難ニシテ条約履行ノ為ニハ先ヅ独逸ノ經濟狀況ヲ安固ナラムルヲ要ス云々

右ニ対シ仏国政府ハ八月一日附ニテ左ノ趣旨ヲ回答セリ

倫敦協定ハ關係国全部ノ同意アルニアラズンバ變更シ得ザル事實見ノ如シ仏国政府ハ本件ニ付独逸申出ノ如キ變更ヲ加フルノ意無ク随テ仏国ハ右協定ノ變更アル迄ハ従前ノ請求ヲ維持スル權利アリ若シ八月五日以前ニ独逸ガ従前通ノ仕払ヲ履行スル決意ヲ示サザルニ於テハ仏国政府ハ自國臣民並ニ調印國臣民ノ（脱）八月五日ヨリ実施スヘシ仏国政府ノ見解ニ依レバ独逸ハ清算所決済金ノ仕払ニ何等努力ヲ為サズ独逸人ハ自由ニ外國手形ヲ購入シテ馬克相場ノ下落ヲ促進シツツアル事諸般ノ情報ニ依リ明白ナル所ナリ  
英独郵送

一九三 八月二日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

英國政府ヨリ仏伊等六個國宛債務支払問題ニ

対スル公文大要報告ノ件

米國ハ鄭重ナル儀礼ヲ以テ当國ニ対シ一九一九年来ノ利息ノ支払並元本ノ二十五箇年賦償却ヲ要求シ来レルガ右ハ当初契約ノ定ムル所ニシテ固ヨリ英國政府ニ於テ何等不服有ル次第ニ非ズト雖モ現下ノ狀態ニ於テハ對米債務ノ支払問題ヲ以テ唯單ニ英米兩國ノミニ關スル問題ト看做ス事能ハズ本件ハ一面當國ガ債務者タルト同時ニ他面又債權者タル可ク錯雜交互セル利害關係ノ一部ニ過ギズ從テ一面當國ノ債務ガ履行ヲ迫ラルル以上他面債權者トシテノ請求權モ又全然等閑ニ附シ置クヲ得ザル可シ而モ右方針ノ變更ハ真ニ已ムヲ得ザルニ出ヅル事ヲ告白セザルヲ得ズ蓋シ英國ガ其債務額ニ超過スル債權額ヲ有スル以上對聯合國債權ヲ取立テ得バ我國庫ノ利スル所鮮少ナラザルモノ有ル可シト雖モ刻下ノ時局ハ單ニ偏狹ナル財政の見地ヨリノミ考察セラル可キニ非ズ唯聯合与国ノ關係ハ独リ債權者タリ或ハ債務者タルニ止マラズ共同ノ正義自由ノ為ニ互ニ協力一致シタル結果ニ外ナラズ即チ其物質の方面ノミヲ歴史の事實ヨリ切離シ普通ノ商取引ヲ以テ律セントスルハ或ハ一國家トシテハ必要ナル可キモ一般寛容ノ精神ニハ合致セザル可シ從テ英國ノ債權取立猶予ハ一樣ニ其主義ガ承認セラレタル場合

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一九四

ニ於テ認容セラル可キモノナルガ然ラザレバ共同企業ノ或ル一員ノミガ負担ノ支払ニ任ゼザル可カラズト言フガ如キハ正義ニ反スルモノニシテ重税ノ負担富力ノ減退失業其他ノ疾患ニ悩メル当国々民ハ何ガ故ニ英国納税者ノミ其災禍ヲ背負ハザル可カラザルヲ疑フ可シ

茲ニ於テ英国政府ハ遺憾ナガラ聯合与国ニ対シ協力其ノ債務ヲ処分スベキ措置ヲ講ゼラレン事ヲ希望セザルヲ得ズ而シテ英国ノ提議ハ国際債務ヲ一団トシ之ニ対スル包括的ノ解決ニ依リ対独賠償ノ英国手取額ヲ拋棄セントスルニ在リ英国ハ其ノ債務支払ノ必要額以上ノ要求ヲ為スモノニ非ザルモ亦之ヨリ些少ナル仕払ヲ以テ満足スル事ヲ得ズ英国ノ債務ハ自国ノ為ニアラズシテ他国ノ為ニシタルモノナル事ヲ忘ルベカラズ故ニ之ヲ以テ米國政府ニ訴ヘタル処之ニ対シ米國政府ハ仮令右ノ負債ガ聯合國ノ使途ニ充テラレタルニモセヨ兎モ角米國ハ英国ノ担保ニ基キ貸附ヲナシタルモノナル趣旨ヲ主張シタリ結局英国ノ引キ受ケタル役割ハ特權ニモ利益ニモアラザリシナリ尤モ英国ハ之ガ為一般聯合國独逸債務ノ拋棄ヲ提唱スルモノニアラズ唯英国ハ時局ノ為世界ノ蒙ムレル經濟的打撃ニ顧ミ英国側ニ於ケル請求權

付此点ハ予メ本省ニ於テ専ラ大局ニ起見シ方針ヲ確定シ置カルル様致シタシ序ヲ以テ申添フ

一九五 八月三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償會議出席ニ付心得ベキ事項指示方稟請ノ件  
第四六二号(至急) (八月五日接受)

往電第四六〇号ニ関シ  
「ハンケイ」及「ラムソン」ノ言フ所ニ抛レバ同會議ニハ本使ノ出席ヲ予期シ居ル趣ニテ何等カノ行違ニテ今日迄通知遅レ居ルモノノ如シ就テハ本使ニ於テ特ニ心得置クベキ儀モアラバ大至急御電報ヲ請フ尚同會議ニテハ賠償以外ノ問題ハ討議セザルコトニ決定シ居レリトノコトナリ  
往電第四六〇号ト共ニ仏ヘ転電セリ

一九六 八月六日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

八月七日ヨリノ賠償會議ニ於テ國際債務問題  
討議セラルル場合ニ対スル我方ノ措置振ニ関  
シ予メ承認方稟請ノ件

第四六九号 至急 (八月七日接受)

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一九五 一九六

一二二

ノ拋棄ガ此ノ重大ナル問題ノ満足ナル解決ニ到達スベキ包括的計画ノ一部ヲ形成スルニ於テハ対独賠償債權ハ勿論對聯合与国ノ債權ヲモ拋棄スベキ覺悟ヲ有スルコトヲ開陳スルモノナリ

一九四 八月三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ対スル根本方針確定ノ必要ニ付稟  
申ノ件

第四六〇号 (八月四日接受)

往電第四五四号ニ関シ

八月七日ノ協議ニ付英国政府ヨリ我方ニ何等ノ申越ナキハ畢竟目前ノ具体的問題我ニ直接ノ利害關係ナキト条約ニ觸ルル如キ根本的變更ニ付テハ改メテ公式ニ關係国ニ照会スル趣旨ニテ即今回ノ會議ガ言ハバ非公式ノモノタルトニ依ル就テハ何等措置ヲ執ラズ傍觀ノ態度ニ出ツル考ニ付右御承知置キヲ請フ尤賠償問題根本ノ方針ニ関シ英仏兩國利害及主張ノ相違ハ在仏大使及本使ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル処帝國政府トシテハ何時迄モ兩者ノ間ニ立テ彼此何レニ對シテモ具合宜シキ様ノ態度ヲ保ツコト不可能ナル可キニ

往電第四六二号ニ関シ

七日ヨリノ會議ハ賠償問題ニ限ルトノコトニハアレド自然國際債務問題ニモ及ブ場合アルベシトシテ

(一)「モラトリウム」問題ニ関シテハ我方ハ大勢順応ノ方針ヲ採ルノ外ナク

(二)英國ガ聯合國ニ対スル債務ヲ拋棄スル代リニ聯合國ノ独逸ニ対スル賠償債權ヲ右拋棄額ニ相当スル丈ケ拋棄スルノ案出ヅルコトアリトセバ右賠償金額拋棄ノ形式ハ大別二様アルベク

(甲)對英債權ヲ有スル聯合國ガ其各自ノ債務ヲ免除セラレタル丈ケ其對独受領額丈ケヲ減少スル形式ニ於テスル場合ニハ我方ニ關係ナキニ付論ナキモ

(乙)聯合國ノ對英債務免除額ニ相当スルモノ丈ケ聯合國全部ノ對独債權額ノ總計ヨリ減額スルノ形式ニ於テスル場合ニ於テハ又種々ノ問題ヲ生ズベク

(イ)減少セル對独債權總額ノ各國受領額割合ヲ「スバ」協定ノ率ノ儘トスル場合ニハ在仏大使宛客年貴電第一〇四八号「カンヌ」會議ニ對スル訓令(一)(ハ)ノ趣旨ニ依リ之亦我ニ於テ直ニ同意差支ナカルベク

(ロ)若シ「スパ」協定ノ率ヲ変更スルコトトナル場合ト雖日本ハ免除セラルベキ債務ナキニ顧ミ本来其率ハ聊カモ減少セラルベキ筋合ニハ非ズ少クトモ其率減少ノ割合ガ債務ノ免除ヲ受クル国ニ比シ甚ダシク大ナル場合ニハ同意シ難キ趣旨ヲ以テ臨ムベキモ右範圍内ニ於テ前記貴電ノ趣旨ヲ体シ相当公平ト認メラルベキ場合就中荒廢地復興ノ目的ノタメニ該荒廢地所在國ノ受領率増加ニ他ノ聯合國同意スル場合ニハ結局同意ノ外ナカルベク

(ハ)「スパ」協定ノ率ヲ変更スルコトナク若シクハ変更シテ尚且賠償支払ニ対スル新優先權ノ設定問題ヲ議スルノ要生ズル場合アルベク之亦同様ノ方針ニテ処置シ然ル可キカト思考セラレ

(三)國際債務帳消ノ問題ニ關聯シ日本ノ債權ニ影響ヲ及ボス如キ提議ヲ見ルコトハ之有ルマジトハ思考スルモ万一之有ルモ我方ハ米國ト同一ノ態度ニ出デ然ルベク

(四)國際債務ノ問題ヲ離レ前記(二)ト別ニ又ハ其上ニ対独賠償額減少ノ問題討議セラレタル場合其細別ハ前記(二)同様種々ノ形式ニ於テ現ハレ来ルベキガ之亦其内容ニ応ジ前記貴電ノ趣旨ヲ体シ大勢逆行ノ結果ニ陷ラザルヲ期スベク

所ノ判決ニ依リ定マレル補償金ヲ独逸政府ノ貸方ニ記入スルコトヲ当中止ス

三、仏國清算所ハ独逸人財産ノ清算ヨリ生ジタル金額ヲ独逸ニ通告スルコトヲ中止ス

四、独逸人ノ所有ニ属シ「アルサス・ローレン」内ニ残留セル動産ノ返還ニ關スル「バーデン」協定ノ実施ヲ中止ス五、「アルサス・ローレン」内ニ於ケル独逸人ノ財産ニ即時管理手段ヲ執ルベシ  
英独ヘ郵報セリ

一九八 八月八日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛

対独賠償及聯合國間債務決済問題ニ関スル仏  
國家送付ノ件

附屬書 右仏國案

機密公第六四号

大正十一年八月八日

在仏

特命全權大使 子爵石井菊次郎(印)

外務大臣 伯爵内田康哉殿

二 一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一九八

(四)其他ノ問題ニ付テモ右貴電(一)乃至(四)ノ趣旨ヲ含ミ処置致スベシ

右予メ御承知置テ請フ閱場六月来英七日ハ同官ヲモ帶同ノ答

在歐各大使ヘ転電セリ

註 大正十年十二月三十一日内田外務大臣宛在仏國石井大使宛電報第一〇四八号ニ付テハ日本外交文書大正十年第三冊下卷五九七文書参看

一九七 八月七日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

清算所ノ決済額減額問題ニ関シ仏國ハ対独制  
裁実施ノ旨公表ノ件

第五五七号 (八月九日接受)

往電第五四九号ニ関シ

仏國政府ハ独逸ノ回答ヲ不満足ト認メ五日正午ヨリ差当リノ制裁処分トシテ左ノ五種ノ手段ヲ実施スル旨公表セリ  
一、仏國清算所ハ追テ何分ノ命令アル迄總テノ独逸人ノ債權承認ヲ中止ス

二、仏國內ニテ清算シタル独逸財産ノ價格並混合仲裁々判

対独賠償問題ニ関スル仏國案送付ノ件

独逸ノ「モラトリウム」請求ニ伴ヒ対独賠償及聯合國間ノ債務決済問題ハ仏國政府内ニテ新ニ審議セラレ八月上旬ノ「ロンドン」會議ニ於テ仏國ヨリ提議スヘキ原案ハ八月三日ノ閣議ニテ決定セラレタル趣ニテ其ノ決定ノ内対独賠償ノ總額及聯合國債務ノ決済ニ關係スル部分別添<sup>(註)</sup>ノ通り或信スヘキ筋ヨリ八月四日入手致候ニ付何等御參考ノ為及送付候尤モ八月一日ノ「バルフォア」覚書ハ聯合國ノ債務決済ヲ当中止不可能ナラシメタル為仏國原案ハ此儘提出シ得ザル姿トナリ仏國首相ハ右原案ヲ放棄スル決心ヲ為セルモ八月七日「ロンドン」會議ノ第一日ニ於テ「ポアンカレ」ハ後日有利ナル状況ニ立到ラバ仏國政府ハ右類似ノ考案ヲ審議スルノ意アル旨明言シタル趣ニ候尚対独賠償ノ「モラトリウム」ニ伴フ新規要求条件トシテ八月三日ノ閣議ニ於テ決定セラレタル各種ノ条件ハ「ロンドン」會議ニ於テ仏國首相ガ劈頭陳述シタル通ニ付キ別ニ報告ニ不及候此段申進候  
敬具

本信写送付先 在英、独大使

註 別添(仏文)省略

(附屬書)

対独賠償総額及聯合國間債務ノ決済ニ関スル仏国案(仮訳)

独逸債務額ノ確定

一九二二年八月一日払現在額 千二百億金貨麻

第一債務額 五百億金貨麻(絶対優先額) 一九二〇年八月

一日ヨリ五分ノ利息及二分ノ償還資金ヲ附ス

元本債務償還ノ為ニスル一九二四年八月一日

迄ノ現金支払ハ……………ノ率ヲ以テ又同日以

後一九二六年八月一日迄ハ……………ノ率ヲ以

テ割引セラルヘシ

第二債務額 第二債務額ノ条件ニ関シテハ更ニ商議スヘシ

第三 後日ニ譲ル

第一債務額五百億金貨麻ノ支払方法

七割ハ賠償委員会ノ承認スヘキ外国手形ヲ以テ之ヲ支払

ヒ三割ハ現物支払ニ依ルヘシ

關係諸国力其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ繰越ニ同意セサル

限り現物支払ハ一九二六年八月一日以前ニ於テハ如何ナ

ル場合ト雖關係各国ノ持分ノ四分ノ三ヲ超ユルコトヲ得

サルヘシ

第二債務額七百億金貨麻ノ支払方法

独逸債務額七百億金貨麻ハ順次左ノ方法ニ依リ失効セシ

メラルヘキモノトス

(イ) 第一債務額五百億金貨麻ノ支払

(ロ) 聯合諸国ニ依リ其ノ債權ニ付決定セラレタル相互ノ

債權ノ失効

右失効ノ二場合ハ独逸国力其ノ第一支払額ヲ全部弁済シ

タル後ニ非サレハ重複スルコトヲ得サルモノトス、英帝

国、仏蘭西国、伊太利国、白耳義国、羅馬尼国、「セル

ブ」国等ハ今後其ノ相互ノ債權(約三百億金貨麻)ヲ失

効セシムヘキコトヲ決定ス

右ノ結果トシテ独逸ノ支払額カ元本額三百億金貨麻ニ達

シタルトキハ之ニ依リ独逸国ノ第二債務額ハ右金額タケ

之ヲ失効セシム、其ノ残額(四百億)ハ第一債務額ノ残

額(約二百億)ニ対シ独逸国ノ為ス支払ノ割合及合衆国

ノ同意スヘキ其ノ債權ノ減額ノ程度ニ応シテ失効セシメ

ラルヘシ

前項ニ掲ケタル第二債務額中ノ残額ノ利息及償還ノ条

件ハ右残額ト相殺セラルヘキ合衆国ノ債權ニ適用セラル

ルコトアルヘキ条件ト同一トス

權利者間ニ於ケル第一債務額ノ分配

(イ) 各国ノ分配率ハ現金支払及現物支払ニ対シ各別ニ適

用セラル現金支払ト現物支払トノ代替ハ右諸國中ノ一

ト他ノ一トノ間ニ於ケル特別ノ協定ニ依リテノミ之ヲ

為スコトヲ得ヘク且右ハ相互ニ其ノ權利ノ全部又ハ一

部ヲ交換スルコトニ依リ之ヲ為スヘキモノトス

(ロ) 英帝国ノ持分ハ一割トシ、他ノ諸国ノ分配率ハ「ス

パー」協定第一条ニ定メラレタル分配率ノ割合ニ応シ

之ヲ増加ス

(ハ) 第二債務額ニ対スル伊太利国ノ持分カ其ノ英帝国、

仏蘭西国及合衆国ニ対スル債務ヲ弁済スルニ足ラサル

トキハ其ノ不足額ハ白耳義国、仏蘭西国及超過額ヲ有

スル他ノ国ニ賦課ス

右ノ代リニ第一債務額ニ対スル伊太利国ノ分配率ハ一

分五厘トシ白耳義国、仏蘭西国及伊太利国ノ債務償還

ニ協力シタル其ノ他ノ国ノ分配率ハ其ノ為シタル協力

ノ割合ニ從ヒテ増加セラルヘシ

即

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一九九

仏蘭西国……………六割七分

白耳義国……………一割三分

英帝国……………一割

伊太利国……………一分五厘

其ノ他……………八分五厘

(ロ)及(ハ)ノ代案、第一債務額ニ対スル英帝国ノ持分ヲ一割

トシ他ノ諸国ノ分配率ハ「ヴェルサイユ」

条約第八編第一附屬書ニ掲ケタル損害ノ補

償ノ為メ其ノ版図内ニ適用セラルヘキ法令

ノ施行ノ為既ニ支出シタル又ハ支出スヘキ

費用ノ割合ニ応シテ決定セラルヘキモノト

ス

一九九 八月九日 内田外務大臣ヨリ  
在英園林大使宛(電報)

賠償會議ニ於テ國際債務問題討議ノ場合ニ対

スル我方ノ措置振ニ付回訓ノ件

第二九〇号

貴電第四六九号ニ関シ

大勢賠償総額減少ニ傾カバ之ニ賛成シテ差支ナキモ帝国ノ

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇〇

有スル「スバー」協定ノ率ニ関シテハ貴見ノ如ク日本ハ免除セラルベキ債務モナク又右率協定當時ノ事情及爾後ニ於ケル我主張ニ鑑ミ之ヲ維持スルコトニ努メラレタシ然レドモ万一大勢「スバー」協定ノ率ヲ変更スルコトニ傾カバ一応之ヲ留保シ請訓セラレタシ

其ノ他御申越ノ如ク処置セラレテ差支ナシ

在欧各大使へ転電アリタシ

二〇〇 八月九日 在独国日置大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

独国中央銀行總裁ト深井日銀理事トノ間ニ対

独借款ニ付下相談ヲ為シタル件

附記 独逸ノ賠償金調達ニ関シ漢堡銀行家ヨリ日置大使ニ懇請ノ件

第二一二号 (八月十日接受)

去ル六月中当地ニ来遊セル深井日本銀行理事ハ Reichsbank 總裁トノ間ニ千万円対独借款ノ下相談ヲナシタル趣同理事ヨリ内報アリタル処独逸側ニテ日本ニ信用融通ヲ得度旨ノ希望ハ曩ニ「ワールブルグ」氏ヨリ独逸ノ窮状ヲ述べ我同情ニ訴ヘテ日本政府ヘ伝達万本使ヘ依頼ノ次第之有

リ右ニ対シ本邦財政ノ現状ニテハ之ニ応諾シ兼ヌル旨拒絶セル行懸リモアリ(客年往電第一五〇号及貴電第七六号)右ノ事情ナルニ付テハ前顧対独借款談実現ノ運ビトナル場合ニハ「ワールブルグ」氏ヲ疎外スルコトナク何等カノ形式ニテ同氏ヲ関与セシメ其面目ヲ立ツル途ヲ講ズルヲ要スル儀ト思料ス右當時ノ当路者タル高橋前首相ヘモ御伝ヘヲ請フ

(附記)

独逸ノ賠償金調達ニ関シ漢堡銀行家ヨリ日置大使ニ懇請ノ件

(欧米局第二課調)

独逸ノ賠償金調達ニ関シ大正十年六月中「ワールブルグ」ヨリ申出ノ件

大正十年六月十七日着在独日置大使来電ニ依レバ高橋前大臣竝同大使ノ旧知タル漢堡銀行家「ワールブルグ」氏六月八日同大使ヲ来訪シ左ノ趣ヲ述ベタル由ナリ

「独逸ハ倫敦最後通牒受諾ニヨリ賠償額調達ノ為メ目下専門家ヲ命シ研究中ノ処第一回支払額十億麻克中大蔵省券発行額八億麻克ハ大体国内ニ於テ調達シ得ル見込ナルモ(一)突発的事変ヲ慮ル必要アルコト(二)一時ニ巨額ノ資金

レタシ」

二〇一 八月十一日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

清算所ノ決済額減額ニ関シ仏国ノ対独制裁手段追加公表ノ件

第五六〇号 (八月十七日接受)

往電第五五七号報復手段ノ一種トシテ「アルサス・ローレン」ニ在住セル独逸人ニシテ仏国ニ帰化ヲ許サレズ又ハ帰化ノ願出ヲ怠レルモノ約五百名ニ対シ八月十一日午前八時限り追放ヲ命ズベキ旨公表セララル  
独へ転電、英へ郵送セリ

二〇二 八月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国石井大使宛(電報)

戦争債務抹殺問題対策ニ関シ回訓ノ件

第四四四号

貴電第五四五号ニ関シ

一、対英債権参百万磅ハ七月中既ニ現金償還ヲ受ケタリ  
二、戦争債権ノ意義ヲ「ゼノア」及海牙ノ両會議ニ於テ決定メラレタル処ニ從テ解スル時ハ本邦ノ有スル戦争債権ハ

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇一 二〇二

「ゼノア」宛往電第三四号(四)ニ掲クル円払露国大蔵省証券及仏国政府円払大蔵省証券三千三百万円余ノミニシテ後者ハ本年十月末現金償還ヲ受クル筈也

右ノ意義ニ於ケル本邦ノ戦争債務ナシ

### 三、臨時国庫証券特別会計ノ所有ニ繫ル

(一)「ゼノア」宛往電第三四号(四)

(二)同電(五)

(三)「ゼノア」宛往電第二号二、B

(四)同電二、C

ハ森財務官ノ報告ニヨレハ「ゼノア」ニ於テ戦争債権ニ非ザルモノトシテ聯合各国ノ同意ヲ取付ケタル趣ナレバ右ノ事実ハ飽迄主張スルコトト致度シ

四、戦争債務抹殺問題ニ付テハ大体林大使来電第四六九号及同大使宛往電第二九〇号ノ方針ヲ以テ進ムコトトスベキモノ一ノ場合ニハ横浜正金銀行ガ臨時国庫証券発行ノ際ノ引当トシテ保有セル旧露国政府通知預金五千八百万円余アルヲ以テ此額ノ限度迄ハ右抹殺ニ同意セラレ差支ナシ

五、対支借款中純粹ナル戦争債権ト看做スベキモノナキモ

スル訓令案ヲ作成シタルレドモ未解決ノ点アリシ為之ヲ専門家會議ノ議ニ附シ専門家ハ十一日夜及十二日ニ亘リ審議ヲ続ケタルモ重要ナル点ニ就キ意見ノ一致ヲ見ズ其儘ノヲ首相會議ニ提出スルコトナレリ尚十四日午前各首相及本使非公式會合ヲ為ス筈ナリ

### 二、報告ノ要旨左ノ如シ

独逸政府ハ賠償支払計画ニ基ク債務ヲ未ダ充分ニ履行セズ又其予算ノ不足ヲ補フ為紙幣ヲ増発シテ馬克ノ相場ヲ下落セシメ且公共事業及食料補助ノ為ニ巨額ノ支出ヲ為セリ

同盟国ハ更ニ支払猶予ヲ与フル条件トシテ右ノ如キ事情ヲ再ビ生ゼザラシムル為左ノ保障ヲ要求ス

(一)帝国銀行ノ自治ヲ確実ナラシムル為ニ賠償委員會ノ要求スル總テノ方法ヲ実行シ之ヲ監視スル權限ヲ賠償委員會ニ与フベシ

(二)流動公債減少ノ取極ノ監督ニ関スル賠償委員會及担保委員會ノ決議ヲ実行スベシ又紙幣流通額ノ制限通貨ノ安定ニ関シ賠償委員會ノ要求セル提案ヲ速ニ提出スベシ

政府ニ於テ本邦銀行ヨリ買上ケタル參戰借款二千万円及形式上本邦銀行カ債権者タル參戰追加借款百六十万円ニ付テハ戦争債務抹殺問題ガ今ヤ旺ニ論議セラレツツアル情勢ニ乗ジテ或ハ支那政府ニ於テ之ガ抹殺ヲ主張スルニ至ルナキヲ保セズ此ノ如キ主張ノ貫徹セラルル懸念ナシトスルモ將來注意ヲ要スヘシ

六、日露戦争債務ハ民間債権ニ属スルヲ以テ抹殺問題ノ範圍外ニ在ルモノト認メラルルモ若シ民間債権ヲモ抹殺スルノ議起ルニ於テハ第三項ノ債権ヲ拋棄スル代リニ日露戦争債務抹殺ヲ主張スルコト利益ナリ

在歐各大使ニ転電アリタシ

二〇三 八月十二日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸賠償問題ニ関シ専門家會議ヨリ最高會議

ニ提出ノ報告書要旨ニ付報告ノ件

第四九〇号 (八月十四日接受)

一、往電第四七九号ヲ以テ申進置キタル英仏白首相間ノ非公式會合ハ十一日モ引續キ開催セラレ英國ノ作成シタル案ヲ基礎トシ「モラトリウム」ニ関スル賠償委員會ニ対

(三)輸出額ノ二十五「パーセント」ノ「レヴィー」ヲ繼續シ金又ハ外国貨幣ニテ支払ハシムベシ其取立金ハ担保委員會ノ名ニ於テ帝国銀行ニ払込ムベシ

(四)関稅收入(輸入輸出共)ハ總テ毎月帝国銀行ノ特別勘定ニ払込ミ担保委員會之ヲ検査ス独逸政府ハ其義務ヲ履行スル間ハ該勘定ノ貸方残高ヲ処分スルヲ得若シ履行セザル時ハ担保委員會ハ其残高ヲ管理シ之ニ依リ支払ヲ確保スル權限ヲ有ス

(四)担保委員會トノ間ニ決定サルル歳入歳出監督ノ取極ヲ実行シ且担保委員會ニ対シ予算ニ關係アル提案ノ研究及報告ノ便宜ヲ与フベシ

(四)一九二二年十二月三十一日以前ニ担保委員會ノ承諾セル資本輸出防止法案ヲ実施シ其実行ノ監視及報告ノ為担保委員會ニ便宜ヲ与フヘシ

(五)森林及鉱山ノ監理ニ付テハ各国提案ヲ異ニシ意見一致セズ日、英ハ之ヲ賠償委員會ニ研究セシムル案ヲ支持シ仏、白、伊ハ独逸木材石炭引渡ニ関シ履行ノ場合ニハ自動的ニ監理ヲ行ヒ得ル様此ノ際決定スヘシト主張シタルモ細目ニ付キ各々一致セザル所アリ

二一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇四

(六)賠償委員会及担保委員会ハ独逸ノ歳入超過ヲ得ル方法ニ付考慮スベク独逸ハ之ニ関スル賠償委員会ノ許与スヘキ支払猶予ニ付テハ本年ノ現金仕払ハ全部猶予スル事ニ各国委員一致セルモ一九二三年以後ノ仕払猶予ニ付テハ仏国ハ今後更ニ国際貸借ノ整理ヲモ合セタル一般の問題トシテ解決スヘシトシ白、英、日之ヲ賠償委員会ニ研究セシムヘシトシ伊国ハ一九二三年ノ仕払猶予ノミヲ研究セシムヘシト主張シ之又首相會議ニ其ノ儘報告スル事トナレリ

三、独逸ノ要求セル清算所勘定仕払金ノ減額ニ付テハ一ヶ月ノ猶予ヲ与ヘ八月十五日期限ノ貳百万磅ヲ仕払ハシメ其ノ後ハ賠償委員会ノ承諾ヲ条件トシテ各国毎ニ協定セシムルコトニ一致セリ

四、十四日更ニ五国間ニ非公式会合ヲ開催シ協調ニ努力スル事トナレリ

在欧米各大使へ転電セリ  
在欧洲各公使へ郵送セリ

二〇四 八月十五日

在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

儘立別ルル事トセバ吾人ハ如何ナル立場ニ於テ談シタルカヲ明カニシ置ク要アリト述べ尙此ノ妥協不成立ノ主因ガ仏国側ニ存スル如キ口吻ヲ漏シタル為仏首相又躍起トナリテ之ヲ駁シ妥協不成立ト云フモ原状ニ帰ルニ過ギズト弁ジ英首相ハ

(一)聯合國ガ国際債務問題ニ関シ現ニ米国ニ派遣シ若クハ派遣スヘキ代表者ノ帰還(十月末トナラン)迄會議ヲ中止スル事

(二)独逸賠償問題ハ右代表者帰還後開カルベキ會議ノ決定ヲ見ル迄賠償委員会ニ委スル事

(三)保障委員会決定ノ保障ヲ直チニ実行セシムル事  
(四)国際債務利子ハ右(一)ノ期間強制セザルコト

ノ四点ヲ以テ其ノ英國案ノ骨子ナリト説明シ仏首相ハ單純ニ賠償委員会ニ委スル事ハ同意シ能ハズトテ下ラズ伊白尚妥協ノ要ヲ説キ仏首相ハ兎ニ角今夜迄熟考シ何カ云フベキ事アラバ申出デント附言シ會議ハ何等未決定協議不調ノ儘午後二時散会セリ

在欧米各大使へ転電セリ在欧洲各公使へ郵送セリ

二四二

独逸賠償問題ニ関スル倫敦最高會議ノ妥協不成立狀況ニ付報告ノ件

第四九四号

(八月十六日接受)

往電第四九〇号ノ通り八月十四日午前十一時首相官邸ニ英仏白首相伊外相及本使非公式ニ会合英首相ヨリ前日(日曜)一日ノ休日ニ依リ何等カ再考局面展開ノ途ツキタルヤト述ヘタルニ対シ仏首相先ヅ妥協不能ノ旨ヲ答ヘ其ノ立場ヲ縷述スル所アリ伊外相ハ妥協ノ必要ヲ唱ヘ全体ノ問題ハ後日ニ譲リ差当リ「モラトリウム」問題ヲ賠償委員会ニ一任シ取敢ズ前電専門委員会一致ノ点丈実行スル事トシテハ如何ト提議シ仏首相ハ之丈ニテハ何等新シキ事無ク「モラトリウム」ノ無条件承諾ト選ブ所無シト難ジ尋イデ白首相大局ヨリ妥協ノ必要ヲ力説シタルガ英首相ハ仏首相ノ態度斯クノ如ク強硬ナル以上協議ヲ続行スルモ益無シ左リトテ独逸ヲシテ払ハシメントスルモ実行ハ出来難カルベク条約ノ規定ニ復歸スルノ外ナシ兎ニ角本日午後本會議ヲ開キ妥協不成立ノ旨ヲ報告スル事トスペイント提議シタルガ仏首相ハ本會議開催ヲ不必要トシ伊白兩國ノ真意ニ関シ仏伊白ノ間ニ二三押問答アリタル末英首相ヨリ本會議ヲ開カズシテ此ノ

二〇五 八月十七日

在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独賠償問題ニ関シ支払猶予ヲ認ムルヤ否ヤ

ニ付仏国政府ノ態度報告ノ件

第五六五号

(八月十八日接受)

十六日仏国内閣閣議ニ於テ「ポアンカレ」ハ倫敦會談ノ經過ヲ報告シ併セテ対独賠償ニ対スル仏国今後ノ態度ニ付協議シタル由ノ処公然従前ノ態度ヲ持続スルニ決シ今後事態ノ転換ヲ俟チテ臨時議會ヲ召集スルコトアルベキモ急ニ之ヲ召集セザルコトニ決定セリト伝ヘラル

賠償委員会ハ独逸ニ「モラトリウム」ヲ許スベキヤ否ヤニ付多分十七日ヨリ討議ヲ開始スベキ予定ナル処独逸委員ヲモ招集スベキ考案アルヤニテ急速ニハ決定ヲ見ザルベキ模様ナルガ此際白耳義委員ノ態度如何ハ注目ノ中心トナリ居レリ仏国側ハ白耳義ガ仏國ヲ支持セザル迄モ少クモ本件ニ付投票ヲ棄権スルコトヲ希望シ(白国委員棄権スルトキハ英伊兩國ノ投票ノミニテハ少数トナルコト第八編第二附屬書十三項前段ノ規定ニ依リ委員長ガ仏國人ナルコトヨリ生ズル当然ノ結果ナリ)白国政府ハ今尚ホ英仏間ニ妥協ノ成

二一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇六 二〇七

立ヲ希望シ仏国政府ト協議中ナル趣ナルガ白国委員ガ賠償委員会ニテ「カスチング、ヴォート」ヲ投下スル地位ヲ利用シ賠償委員会ノ最終決定前ニ妥協案ヲ成立セシムルコトニ奔走中ナリトノ情報アリ前記白耳義ノ仲裁案採用セラレザル場合ニハ賠償委員会ハ

- (一)多数ヲ以テ独逸ノ「モラトリウム」ヲ認ムルカ
- (二)又ハ之ヲ拒絶スルカ

ノ外ナキ処(一)ノ申合ニハ仏国政府ハ直ニ議會ヲ召集シテ政府ノ信任投票ヲ求メ自由ナル制裁手段ヲ執ルベク(二)ノ場合ニハ暫ク独逸ノ態度ヲ注視シ独逸ガ制規ノ支払ヲナサザル場合ニ於テハ聯合國ニ対シ第二附屬書第十八項ノ適用ニ依リ制裁ノ実行ヲ催告スルコトナルベシト予想スル者多シ

二〇六 八月二十三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

清算所支払勘定ニ関シ英國政府ヨリ独国政府

宛通告シタル旨通知越ノ件

第五〇八号 (八月二十四日接受)

往電第四四五号末段ニ関シ

清算所支払勘定ニ関シ英國政府ヨリ本月十七日附ヲ以テ在

二〇八 八月二十五日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

ミューズ県会ニ於テ対独賠償問題ニ関シ為シ

タル仏国首相演説ノ要旨報告ノ件

附屬書 右仏国首相演説ノ要訳文

公第五〇二号 (十月四日接受)

大正十一年八月二十五日

在仏

臨時代理大使 松田 道一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ミューズ」県会ニ於ケル首相「ポアンカレ」

演説ノ原文並ニ要訳文送付ノ件

本月二十一日「ミューズ」県會議長ニ再選セラレタル首相「ポアンカレ」ハ同県会ニ於テ賠償問題特ニ倫敦會議ニ於ケル仏国政府ノ態度ニ関シ一場ノ演説ヲ為シタルガ時節柄注意ニ値スト思考セラルルニ付茲ニ原文並ニ要訳文及御送付候条御査収相成度此段申進候

註 原文省略

(附屬書)

「ミューズ」県会ニ於ケル首相「ポアンカレ」演説ノ要訳文

二一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇八

二四四

英独逸大使ニ対シ独逸政府ハ二百万磅ヲ八月十五日ヨリ四週間以内ニ支払フヘク其ノ後ハ右ニ関スル一九二一年六月十日附協定ヲ廢棄シ賠償委員会承諾ヲ条件トシテ各国毎ニ協定スルコトニ會議ニ於テ決定シタル旨ヲ通告シタル趣ノ通告文ヲ添ヘ公文ヲ以テ通知越シタリ写郵送ス  
在歐米各大使ヘ郵送セリ

二〇七 八月二十四日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

清算所決済金問題ノ協定成立セルヲ以テ仏国

政府ノ対独報復手段解除公表ノ件

第五八二号 (八月二十五日接受)

往電第五六〇号ニ関シ

清算所決済金問題ハ過般倫敦ニテ協定成立セルヲ以テ曩ニ仏国政府ノ「アルサス・ローレン」地方ニ実施セル報復手段ハ八月十二日ノ独逸人ニ対スル追放処分ヲ除外全部解除セラルベキ旨二十三日公表セラル

英独郵送

議事日程ニ入ルニ先チ刻下ノ急務タル賠償問題ニ関スル所見ヲ開陳センニ本問題ノ行詰マリハ単ニ独逸ノ惡意ニ基クノミナラズ予想外ノ困難ノ存スルコトニ依ルハ遺憾ニ不堪、大戰後全世界ニ國家主義の若クハ帝國主義の傾向ト共產主義の若クハ過激主義の傾向トノ二大潮流ヲ生ジタル処稍モスレバ仏国ヲ目シテ前者ノ傾向ニ驅ラルルモノトナスモノ多キモ吾人ハ何等領土の野心ヲ包藏スルモノニ非ズ又何等霸權ノ確立ヲ追求スルモノニモ非ズ吾人ハ吾人ノ安危ノ依テ繫レル平和条約ノ履行ト損害ノ賠償トヲ求ムルニ過ギズ而モ吾人ノ此態度ヲ了解シ得ザル我同盟國ハ或ハ露西亞ニ接近シ或ハ貿易ノ回復ニ汲々トシ其ノ独自ノ政策ヲ執テ動カズ兩者政策ノ乖離スル又止ムヲ得ザルナリ然レドモ國各々國策アリ吾人敢テ之ヲ咎メズ只吾人ノ到底理解シ能ハザルハ大戰後三年間平和条約並ニ其ノ後ノ諸協約ニ於テ仏国独り常ニ不利益ヲ蒙レルコト之ナリ今日改メテ吾人ノ感ジタル失望、独逸ノ為ニ強ヒラレタル讓歩、対独債權ニ対スル減額、又ハ吾人ノ要求シタル保障若クハ制裁ニ対スル反対等ヲ一々列挙セザルモ斯而仏國國策ノ遂行ハ常ニ妨ゲラレ来レリ吾人ハ我ガ同盟國ニ対シ同盟持續ノタメ平等

ト主權ノ相互尊重トヲ要求セザルヲ得ズ

特ニ賠償問題ニ関シテハ仏國ノ主張コソ最モ尊重セラレザルベカラザルニ大戦ノ損失ノ中半以上ヲ負擔シ從テ对独債權ノ中半以上ヲ所有セル仏國が国際會議、賠償委員會ニ於テ常ニ多数決ノ原則ニ屈從セシメラレ利害關係少キ諸國ノ意志ニ支配セラルルハ不条理モ亦甚シト言ハザルベカラズ英國ノ吾人ニ対スル友誼ハ之ヲ疑ハザルモ我が財政上ノ危機並ニ独逸ノ賠償ガ如何ニ吾人ニトリテ重大ナルカヲ充分解スル処無ク常ニ独逸ヲ庇護シ吾人カ強制手段ヲ提議スル毎ニ緩和ヲ強イントスルハ遺憾至極ナリ現ニ独逸ハ既ニ充分ナル支払猶予ヲ有シツツ尚且ツ吾人ニ一層ノ讓歩ヲ求メツツアルニ非ズヤ独逸首相ハ馬克相場ノ暴落ニ対シ独逸政府ノ責任ナキコトヲ固執シ英國政府モ亦過日ノ倫敦會議ニ於ケル對案ニ於テハ之ヲ支持スレドモ独逸ガ千九百二十一年五月五日ノ賠償支払取極ニ基ク義務ヲ履行セザルコト、石炭及木材ノ引渡ノ不完全ナルコト、休戦以來独逸ガ國庫証券並ニ不換紙幣ノ濫発ニ依リテ漸ク財政ヲ弥縫シツツアルコト、斯而馬克ノ対内並ニ對外価値ヲ減損シタルコト及独逸政府ガ不急ノ土木事業並ニ國民ニ対スル補助金等ニ國

休戦以來独逸ハ右ニ関スル總テノ制限ヲ撤廃シ資本家ノ資本移転ヲ拱手默過シツツアル有様ナリ

右ノ状態ニ鑑レバ賠償委員會ハ正ニ独逸ノ不履行ヲ確認シ其ノ執ルヘキ制裁方法ヲ聯合國ニ提議スヘキ時機ニ臨メルニ拘ラズ其ノ挙ニ出デザルハ某々國ガ常ニ其ノ優柔不斷ノ態度ヲ捨テザルガ為ニシテ条約ノ精神ノ全ク没却セラレツツアルモノト言ハザルベカラズ

而モ此時ニ至リテ独逸ハ更ニ支払猶予ヲ求メ來リ英國政府モ亦何等吾人ニ計ル処無ク公然右申出ニ支持ヲ与ヘタルノミナラズ同時ニ仏國カ英國ニ対シテ債務國タルコト、米國政府ノ態度如何ニヨリテハ其ノ償還ヲ求ムベキコトヲ通牒シ來レリ

吾人ハ此通牒發表ノ時機其ノ當ヲ得ザルヲ返ス返スモ遺憾トセザルヲ得ズ

大戦ニ基ク聯合國間ノ債務ハ独逸ノ聯合國ニ対シテ負ヘル債務ト截然區別スルヲ要ス何故トナレバ独逸ノ債務ハ其ノ蒙ラシメタル損害ニ対スル賠償ニシテ聯合國間ノ債務ハ共同ノ大義ニ基キ聯合國ノ戦勝ヲ目的トシタルモノナレバナリ

費ヲ濫費シツツアルコト等ノ事實ハ英國政府ノ既ニ確認シタル処由是觀之独逸ヲ弁護スヘキ余地何レニ在リヤ

又独逸馬克ノ下落ガ同國輸出入ノ不均衡又ハ賠償支払ニ基クモノニ非ザル所以ヲ數字ヲ以テ示セバ千九百十九年乃至千九百二十一年ノ三ヶ年間に於ケル独逸ノ對外貿易ヲ其ノ固有ノ統計ニ依リテ比較スルニ仏國ノ輸入超過額ハ独逸ニ比シ二百八十一億八千五百萬法ノ多キニ居リ又右三ヶ年ニ於ケル兩國ノ對外支払額ヲ対照スレバ独逸ノ聯合國ニ対スル賠償支払額四十億金貨麻即チ百二十億法ニ対シ仏國モ亦六十五億法ノ外償償還ヲ為シタリ即チ兩者ヲ合スレバ独逸ニ比シ人口五分ノ三足ラスニシテ而モ幾多豊饒ノ土地ヲ失ヘル仏國カ五百四十五億法ノ支払ヲ為シタルニ対シ独逸ハ僅カニ三百二十億法ヲ吐出シタルニ過ギザルナリ之ヲ要スルニ馬克ノ暴落ハ紙幣ノ増発ト資本ノ国外流出トニ依ルモノト論断セザルヲ得ズ即チ千九百十九年度ニ於テ百四十億ナリシ紙幣ハ千九百二十年度ニ於テ二百二十億トナリ千九百二十一年度ニ於テハ更ニ四倍シテ八百十億トナレリ而モ本年ニ入りテハ毎月百億以上ノ増発ヲナシツツアル状態ナリ他方仏國ガ資本ノ国外流出ヲ百方制限シツツアルニ対シ

万一英國ニシテ仏國ノ債務ヲ取立テントシ而モ独逸ニ対スル賠償要求ヲ認メズンバ仏國モ亦仏國ニ対スル債務國タル伊太利羅馬尼又ハ塞耳比ニ対シ其ノ債權ノ行使ヲ余儀無クセラルベシ是固ヨリ吾人ノ潔シトセザル処吾人ノ欲スルハ唯々独逸ノ賠償支払ノミ

吾人ト雖モ聯合國間ノ債務ガ國際為替關係ニ國際經濟状態ニ影響スル処多大ニシテ速カニ總テノ關係國ヲ招集シ全体の解決ヲ計ルノ要アルハ之ヲ知ル然レドモ右ハ独逸ノ賠償ト嚴重ナル區別ヲナスコトヲ必須条件トナサザルベカラズ「バルフォア」ノ「ノート」發表ハ過日ノ倫敦會議ニ於テ仏國ヲシテ聯合國間ノ債務ヲ討議スルコトヲ得ザラシメ又賠償委員會ノ財政改革並ニ財政監督ニ関スル要求ヲ顧ミザル独逸ノ現状ハ吾人ヲシテ今日國際起債ノ問題ニ近クコトヲ許サズ於是乎吾人ハ独逸ノ支払猶予ヲ拒絶スルカ産業担保ヲ得テ之ヲ許スカノ二途ヲ有スルノミ而シテ右担保トシテハ所詮「ルール」ノ國有鉱山及独逸ノ國有森林ヲ挙グベキナリ以上ハ吾人ノ倫敦會議ニ於ケル主張ノ骨子ニシテ英國政府ノ同意セザリシ所ナリ然レトモ此主張コソ仏國ノ權利ヲ擁護スベキ唯一ノ方法ナレバ爾后如何ナル事態ヲ生ズ

二一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二〇九

ルトモ吾人ハ之ヲ放棄スルコト能ハズ

吾人ノ担保要求ニ対シテハ種々ノ揣摩臆測行ハルルモ決シテ他意アルニ非ズ将来万一協調成ラザルタメ吾人ノ意ニ反シ単独ニ担保ヲ占有スルコトアリトスルモ之聯合國全体ノ利益ノタメニ之ヲ行フニ過ギズ

独逸ニシテ其ノ義務ヲ認メ之ヲ忠実ニ履行センカ吾人ハ平和条約ノ実施ニ関シ独逸ト其方法ヲ協議スルニ吝カナルモノニ非ズ吾人ハ只蒙レル損害ノ賠償ヲ欲スルノミ

二〇九 九月二日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

聯合國間債務弁済ニ関スルバルフォア覚書ニ  
対スル仏国ノ回答要旨報告ノ件

第六〇四号

(九月四日接受)

仏国政府ハ聯合國間債務弁済ニ関スル八月一日附「バルフォア」覚書ニ対スル回答書本月一日閣議ニ於テ決定シ之ヲ在仏英国大使ニ交付シ即時発表シタルガ其要点左ノ如シ(全文郵送)

一、仏国政府ハ英国政府ト同様賠償問題ハ何等カノ方法ニ依リ聯合國間債務問題ト関連セシムルニアラズンバ決定的

二四八

解決ニ達シ得ベカラズト信ズ同問題ハ近々総テノ關係国ヲ漏ナク招集スル必要アリ同問題ハ嚮ニ英国政府ガ八月一日附覚書ヲ以テ仏国政府ニ対シ債務支払ヲ請求セ(シナ)バ前回ノ倫敦會議ニ上リタルナルベシ

二、聯合國間ノ戰爭債務ト賠償債務トハ混同スベカラズ若シ聯合國政府ガ相互ニ戰爭債務ノ原因タル財政的援助ヲ為サザリセバ戰爭ハ彼等ニ取リ不利ニ終局スルカ一層長引キシナラン孰レニセヨ貸借国ハ或ハ其工業ニ依リ或ハ其軍隊ニ依リ同様ノ努力ヲ為シ這般ノ債務ハ協同ノ目的ノ為契約セラレタルモノニシテ之ニ依リテ為セル買入ハ總テ勝利ノ為ニ資セルモノナリキ

三、平和条約ノ準備ニ當リ戰勝国ハ一切戰敗国ニ対スル戰爭費用ノ要求ヲ拋棄スル事ニ決定セリ若シ債務ノ仕払ヲ主張スルニ於テハ(脱)戰爭中最大ノ軍事的努力ト最モ重キ負担ヲ蒙レル国ノ負担ニ歸スルニ至ルベシ聯合國間債務ガ協同目的ノ為ニ契約セラレタルモノナル事「バルフォア」卿ノ言ノ通ナラバ既ニ右目的ヲ達シタル以上道德上ハ該債務ノ打切至当ナルベク慚クトモ同目的ノ達成ハ該債務ニ普通ノ國際債務ト異レル性質ヲ与フルモノニアラズトハ謂フ

ベカラズ

四、之ニ反シ独逸賠償債務ハ独逸ノ故意及大部分不必要ノ破壊並独逸ヨリ蒙ムレル損害ニ対スル聯合國政府負担ノ(不明)金支払ノ結果ニ外ナラズ此賠償ハ当然他ノ解決ニ先立ツテ為サレザルベカラズ交戰国中最多ク破壊ヲ蒙リタル仏国ハ独逸ガ約束セル支払ヲ為サザルタメ自ラ荒廢地復旧ヲ行フヲ要シ為ニ現在予算ノ不均衡ヲ来セリ仏国ガ荒廢地復旧ニ要スル費用ガ独逸ニ依リ直接支払ハレ又ハ仏国債務ノ大部分ヲ成ル可ク速ニ「モビリゼー」スル方法ニ依リ弁償サレザル間ハ仏国ハ戰時債務ノ如何ナル整理ヲモ考慮スルノ意思ナシ然レドモ独逸ガ右ノ債務ヲ履行スルニ於テハ仏国政府ハ國際債務ノ一般の整理ヲ考慮スルニ反對スルモノニ非ズ

五、仏国ノ対英反對米債務ハ區別シテ考フルヲ要ス対米債務ノ一部ハ一種ノ商業債務ナリ又米國ノ參戰ハ直接其存立ヲ脅サレタルニ依ルニ非ズシテ其名譽ト主義ノ擁護ノタメナリシニ反シ英國ハ仏国ト同様常ニ其独立及領土ノミナラズ其國民ノ生命財産及其存立ヲ防衛スルタメナリシヲ忘ルベカラズ次ニ英國ノ対仏債權額ハ修正ヲ要ス例ヘバ英軍ノ

二一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二一〇

仏軍ニ対スル供給品ノ売掛金額中ニハ總費用及課稅額ヲ含ムニ反シ仏軍ノ英軍ニ対スル同品売掛金中ニハ之ヲ含マザルガ如キ其一例ナリ  
六、斯クノ如ク荒廢地復旧ノタメノ支払ガ聯合國間債務整理ヲ許スノ状態ニ至ルトキハ這般ノ整理ハ先ヅ同一標準ニ依ル公平ナル額ニ減額スルタメ周到ナル研究ヲ要ス仏国政府ハ自国ガ他ノ聯合國ヲ遇スルト同様ニ遇セラレンコトヲ要求ス仏国ハ聯合國ニ対シ其債權支払ヲ主張スル意ナシ斯クノ如キ主張ハ德義上及物質上目下許スベカラザルモノト認ム  
在欧米各大使及「ジュネーヴ」ヘ郵送セリ

二一〇 九月二十一日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸帝国銀行ガ六個月期限ノ大蔵省証券裏書  
ヲ承諾セル旨報告ノ件

第六四〇号

(九月二十二日接受)

賠案第三二四号

其後独逸帝国銀行總裁倫敦ニ赴キ英国賠償委員モ参加シ英蘭銀行ト交渉セル結果帝国銀行ハ本年八月乃至十二月支払

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一二

ノ二億七千万金貨馬克ニ対スル六ヶ月期限大蔵省証券ノ裏書ヲ承諾シ正式協定ハ二十五日調印ノ筈ニテ困難ヲ極メタル本件モ一段落ヲ告クルコトナレリ右ニ関シ「デラクロア」ノ語ル所ニ依レハ十八ヶ月ノ期限ヲ主張セル帝國銀行カ六ヶ月期限ヲ承諾スルニ至リタル次第ハ帝國銀行カ六ヶ月内ニ支払ヒ得ザル場合ニハ英蘭銀行ニ於テ立替支払ヲ為スコトニ交渉成立セルニ依ル兩行ノ間ニハ直ニ帝國銀行ノ英蘭銀行ニ有スル預金五千万金貨馬克ヲ担保トスル約束成立セリトノコトナルガ将来更ニ之ヲ増加スヘキヤ否ヤハ大蔵省証券ノ支払状況ニ依ルヘシ尚ホ右大蔵省証券ノ割引ニ関シテハ白國政府ハ未ダ何等決定セザルモ必要ナル場合ニハ英蘭銀行之ニ応ズルコトナルヘシト

英、独、白及ゼネヴァヘ転電セリ

一二 九月二十三日 在独国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル独国政府及国民ノ意向ニ付

報告ノ件

第二五三号 (九月二十四日接受)

一、賠償問題ガ長ク独逸ノ運命ニ影響スベキ最大問題タル

一二〇

ハ改メテ申ス迄モ無キ所ナルガ倫敦最後通牒ノ千三百億ガ独逸ノ負担力ニ超過ストノ説ハ漸ク一般ノ輿論タラントスルモノノ如ク而モ独逸側ニ於テハ五百億モ尚過重ナリトシ結局当初倫敦會議ニ提出セル三百億迄切下ゲン底意ナルガ如シ兎ニ角独貨ノ暴落ハ金貨支払ヲ不可能ナラシメタルヲ以テ独逸政府ハ仏國ノ威嚇ニ拘ラズ支払不能ノ一点張ヲ以テ之ニ對抗スル決心ヲ固メタルモノナルベク過日外務次官「シムソン」ハ「サンクション」ナド怖ルルニ足ラザルモ馬克ノ暴落ハ閉口ナリト語レリ

二、概シテ独逸人ハ賠償問題ニ対シ近來樂觀的トナレルヲ認ム蓋シ「ポアンカレ」ノ強硬ナル態度ニ拘ラズ大勢ハ仏、白ノ運命ガ独逸ノ運命ト到底離ルベカラザルヲ仏、白人ニモ感知セシムルニ至レリトノ觀察ニ依ルモノナル可シ独、白直接交渉ニ際シ漢堡ノ Warburg、ハ本使ニ向テ「Theunis」ハ独逸ニ対シ決シテ無理ナル処置ヲセズ」ト謂ヒ当地 Disconto 銀行頭取 Urbig、ハ「白國力巨額ノ独貨ヲ所有スルハ何ヨリノ保障ナリ」ト語レリ

賠償問題ノ交渉モ漸ク順路ニ入ラントスル傾向アルヤニ觀測セラル

三、賠償問題ヲ政治家軍人ニ委ネズ実業家ニ処理セシメナバ解決容易ナリトハ独逸人ノ常ニロニスル所ナリシガ近時ノ新趨勢ハ恰モ之ニ裏書セムトスルモノノ如シ「スチンネス」対 Tubetase 其他同種ノ契約ノ成立ハ政府外ニ於テ賠償問題ノ解決ヲ試ミルモノトモ見ラル可シ聞ク所ニ依レバ「スチンネス」ハ仏國ニ向ツテ占領軍ノ撤退独逸經濟界ニ対スル不干渉等ヲ条件トシ荒地復興全部ノ引受ヲ提議セリト云フ「スチンネス」ノ背後ニ「クルップ」、Thyssen、「シーメンス」等主ナル独逸実業家ノ支援アルコト勿論ナルヘシ)

四、十二月「ブラッセル」ニ開カルベキ万国經濟會議ニ於テ独逸ハ國際小借款ヲ成立セシメ三四年ノ休養時期ヲ得ルカ又ハ大借款ヲ成立セシメ賠償問題ノ終局ノ解決ヲ得ルヲ企圖スルモノノ如シ同會議ニ於テ独逸側カ米國ニ期待スル所ハ聯合國ニ対スル借款利子ノ切捨並現金ノ支払ヲ四十五年延期スルコト及新借款調達ニ対スル援助等ナルヘシ

五、當國ニ於テハ會議ニ於テ英米ハ対仏債權ヲ以テ仏國ニ圧迫ヲ加ヘ軍備縮少ヲ行ハシメムト試ムベキモ仏國ハ斷ジテ之ヲ肯ゼザルベシト觀察シ居リ仏國ハ食料品ヲ自給シ得

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 一二

ルノミナラズ荒廢地ノ耕作モ殆ト復旧セラレタレバ最早他國ノ扶助ニ俟ツ所ナク併モ其雄大ナル軍備ハ歐洲ノ霸權ヲ維持セシムル所以ニシテ之ヲ捨ツルヲ欲セザルハ尤ナルモ為ニ黑人兵ヲ軍隊ニ用フル等其裏面ニハ將來ニ対スル恐れヘキ禍根ヲ含ムモノト批評シ居レリ

六、當國人中英國ハ近來著シク外界ノ信用ヲ失墜シ來レリト觀測スルモノ尠カラズ尠クトモ独逸人ノ英國ニ対スル信用ハ近時減退セルモノアルヲ認ム

一二 九月二十七日 在仏國佐藤臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸帝國銀行裏書英蘭銀行支払ノ大蔵省証券

ノ引渡ニ関スル件

第六五八号 (九月二十八日接受)

賠案第三二六号

九月二十五日独逸政府ハ賠償委員會ニ独逸帝國銀行裏書英蘭銀行支払ノ大蔵省証券一九二三年二月十五日期限四千七百四十万金貨馬克及三月十五日期限四千八百六十万金貨馬克ヲ引渡シ又白國委員ヨリ右証券ノ担保ニ関シ白獨政府間ニ協調成リタル旨ノ通告アリタルヲ以テ二十六日賠償委員

一二一

会ハ之ヲ諒承シ右証券ヲ白国政府ニ引渡スヘシト決議セリ  
英独白ヘ郵送セリ

二二三 九月二十七日 在独国松原臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル独国政府及国民ノ動向ニ付

追加報告ノ件

第二五九号 (九月二十九日接受)

日置大使時局感想往電第二五三号続キ

七、国内ノ財産カ一切賠償ノ抵当トナリ居ル姿ナルト通貨ノ際限ナキ価値喪失ハ資本ヲ国外ニ駆逐シ又ハ外国貨ニ変形セシメ又ハ窃ニ匿藏セシムルコトナリ此形勢ニシテ持續サルルニ於テハ当国事業界ノ根底ヲ次第ニ破壊シ今後益々難境ニ入ル可シ去リナガラ為ニ独逸ノ衰亡ヲ予断スベカラザルハ勿論單ニ人口ニ付テ見ルモ「クレマンソー」ガ仏国ニ比シ此点ヲ氣ニシ講和會議ニ於テ大鉦ヲ振ヒタルニ拘ラズ今日尚六千万以上ヲ算シ再ビ強大国タル地位ヲ占ムヘキハ唯時ノ問題ナリ併カモ之ヲ休戦以來恢復ノ速度ニ見ルニ賠償問題ニシテ一度解決ヲ見ルニ於テハ今後ノ復興ハ意外ニ速ナラン独逸人一般ニ悲觀ノ裏ニモ強キ自信ヲ有スル

賠償委員會ノ態度ニ関スル英國委員提案寫

En raison de la situation financière actuelle de l'Allemagne et de l'effondrement du mark, la Commission des Réparations estime qu'il est devenu nécessaire de suspendre pour le reste de l'année 1922 tous les paiements en espèce à faire par l'Allemagne en devises étrangères au titre des obligations imposées par le Traité.

La Commission recommande donc aux Gouvernements alliés de suspendre tous paiements au titre des opérations de compensation, à condition que la somme mensuelle de 500,000 L.s. offerte par l'Allemagne soit versée à la Commission des Réparations pour être affectée par elle à telle fin qu'elle pourra ultérieurement fixer.

Si les Gouvernements alliés acceptent cette recommandation, la Commission consent à suspendre les versements restant à faire sur les paiements à effectuer en espèces au titre des réparations pour l'année 1922. Le montant des paiements ainsi suspendus sera reporté

ヲ認ム

八、急激ナル物価ノ騰貴食料品輸入ノ困難石炭供給ノ不足ハ刻下ノ重大問題ニシテ政府ハ食料ノ輸入分配ニ付権宜ノ手段ヲ講ジ居ルモ冬期ニ至ラバ各地ニ多少ノ騷擾ヲ見ルヤモ計リ難シ然レドモ仮ニ此機ニ乗ジ国内ノ共產党ガ露国過激派ノ後援ニ依リテ画策スル所アリトスルモ独逸人ハ最早「ボルセヴィック」化スル危険ナシト觀測セララル

二一四 九月三十日 植原外務次官ヨリ  
西野大藏次官宛

賠償支払猶予及現金支払額引下ニ関スル独逸ノ要請ニ対スル賠償委員會ノ態度ニ付英國委員提案ノ件

附屬書 賠償委員會ノ態度ニ関スル英國委員提案寫

和二普通第六六九号

本件ニ関スル在仏石井大使ヨリノ來電ノ趣ニ付テハ曩ニ客月十一日附和二機密第一八二号ヲ以テ申進置候処今般同大使ヨリ独逸国提案ニ対スル賠償委員會英國委員提案ノ全文送付越候条御参考迄ニ右寫及送付候也

(附屬書)

de la même manière que le paiement ajourné par la décision de la Commission en date du 21 mars 1922.

En raison d'urgence de la situation actuelle, la Commission n'a pas jugé nécessaire d'imposer de nouvelles conditions pour le nouveau moratoire pour l'année 1922.

Toutefois, il sera nécessaire à très brève échéance de déterminer le montant des paiements à exiger de l'Allemagne pendant les années 1923 et 1924 ; toute la question des conditions pour tout ajournement de ces paiements (conditions qui seront forcément plus rigoureuses que celles du moratoire actuel) sera examinée comme partie intégrale de cette décision.

(五和訳文) (註 仮訳文ナリ)

独逸国現在ノ財政状況及麻相場ノ崩落ニ依リ賠償委員會ハ独逸国ガ平和条約ニ依リ課セラレタル債務トシテ外国商業証券ヲ以テ為スヘキ一切ノ現金支払ハ千九百二十二年ノ爾余ノ期間ニ対シ之ヲ停止スルノ必要トナレルコトヲ認ム仍テ本委員會ハ同盟国政府ニ対シ清算勘定(第二九六条附

二 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二五

属書十一)ノ名義ヲ以テスル一切ノ支払ハ独逸国政府カ右ノ勘定ニ対シ提出シタル五拾万磅ノ月額ヲ本委員会ニ支払ハシメ右月額ハ本委員会ノ追テ定ムル用途ニ使用スルノ条件ニ於テ之ヲ停止センコトヲ勧告ス

若シ同盟国政府ニ於テ右勧告ヲ受諾スルトキハ本委員会ハ千九百二十二年度ノ賠償トシテ現金ヲ以テ為スヘキ支払中未支払ナル部分ノ支払ヲ中止セシムルコトヲ承認ス右中止シタル支払額ハ千九百二十二年三月二十一日附本委員会決議ニ依リ延期セラレタル支払ト同様ノ方法ヲ以テ之ヲ処理ス

現状ノ窮迫ナルニ顧ミ本委員会ハ千九百二十二年度ニ於テ許与スヘキ新ナル支払猶予ニ対シ新ナル条件ヲ課スルノ要アルモノト認メス然レトモ千九百二十三年度及千九百二十四年度ニ於テ独逸国ニ請求スヘキ支払額ハ之ヲ短期間ニ確定スルコトヲ要ス右一切ノ支払猶予ニ対シテ課スヘキ条件(現在ノ支払猶予ニ対スルモノヨリ当然重キ条件)ニ付テハ本決議ノ一部トシテ之カ審議ヲ為スヘシ

二二五 十月十六日 在独国松原臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

二二四

馬克相場続落状況ト独国財政ノ将来ニ関スル

悲觀說等報告ノ件

第二七七号 (十月十七日接受)

昨今馬克愈々下落シテ(英貨一磅ニ対シ一万馬克以上)其信用国内ニ於テモ著シク失墜セル結果国内取引ニモ外国貨ヲ使用スルコト流行シ来リ又投機者流ガ馬克ヲ売買スルノ外一般人民中ニモ外国貨ヲ買込ミ之ヲ貯フルアリ以テ益々馬克ノ下落ヲ促スニ依リ政府ハ往電第二七三号ノ通り之ヲ取締ル為緊急命令ヲ発セリ斯クシテ政府ハ馬克ノ信用ヲ回復セムトスルニ努ムルガ如キモ一方ニ紙幣ノ増発ヲ続クル限リ又馬克ニ対スル外国ノ信用回復セザル限リ其下落ノ趨勢ハ防ギ難カルベシ最近下落ノ原因中ニ數ヘラルル外国人ノ馬克投出及当国商工業界ノ馬克買込ノ如キ將又銀行家自身ノ投機ノ如キ今回ノ禁令ノ如何トモシ難キトコロナリ若シ夫レ馬克ノ暴落ノ大原因ガ賠償問題ヨリモ当国政府從來ノ財政策ニ存ストハ英仏内ニ之ヲ聞クトコロナルガ其当否ハ姑ク措キ限リアルノ収入ヲ以テ限リナキノ馬克下落ニ追ハルル支出ニ応ゼムトスル当国財政ノ窮状ハ言フ迄モナク最近「ライヒス、バンク」總裁ハ(本電公表ノ場合ニハ

賠償問題解決ニ関スル英仏両国委員案ノ審議

狀況報告ノ件

第七二二号 (十月二十八日接受)

賠案第三三〇号

賠案第三二九号所報ノ英国委員ノ宣告ニ基キ同委員ガ各国委員ニ回章シタル案ハ

一、独逸ニ対シ二箇年乃至四箇年間条約ニ基ク一切ノ債務ノ「モラトリウム」ヲ与ヘ信用回復ノ機ヲ得シムルコト

二、混合委員会ヲ任命シ麻克ノ対外価値ヲ確定セシメ帝国銀行ノ金売却率ヲ一定スルコト

三、現在ノ賠償委員会ハ独逸財政ノ監督ニ不便アルヲ以テ之ヲ改造シ伯林ニ移転スルコト

ヲ骨子トシ右ニ対シ仏国委員ハ十月二十日ノ會議ニ於テ一、賠償問題ノ根本解決ハ国際貸借整理問題ト関連スルヲ以テ關係国ノ會議ニ讓ルノ外ナキコト

二、予算ノ均衡、馬克ノ安定ヲ実行セシムル為一層嚴重ナル財政監督ヲ為スコト及帝国銀行ノ監督並資本ノ流出防止

三、独逸政府ハ事情ノ許ス限り速ニ金貨大藏省証券ヲ發行

此点其他ニ就キ相当取捨アリタシ)独国ガ現状ノ儘ニ放任

セラレハ即チ国際公債ノ援ヲ受ケズ又明年以後ノ賠償問題モ目鼻附カサルニ於テハ独国ハ六ヶ月内ニ破産状態ニ陥ルヘシト称シ居ル由ナリ右ハ昨今英仏ニ於テ独国財政ヲ賠償委員会等ニ依リ監督セムトスル說ノ再燃セル模様アルニ鑑ミ特ニ注意ニ価ス

英仏及漢堡ヘ郵送セリ

二二六 十月二十五日 在独国松原臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独国ノ賠償金支払猶予ニ関スル協定成立ノ旨

公表ノ件

第二七九号 (十月二十六日接受)

往電第一九二号及往電第二〇〇号ニ関シ

今回清算手續ニ関スル独国ノ支払ヲ一九二三年七月迄見合スノ協定当地独国及關係国清算所代表者間ニ結バレタル旨公表セリ

英仏郵送

二二七 十月二十七日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

一一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二六 二二七

二一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二八

シ一部ハ金準備ノ増加ニ充テ他ハ賠償支払ニ充ツルコト  
四、輸出額ノ二十五「パーセント」課金ハ依然継続徴収ス  
ルコト

等意見ヲ提出シ兩案トモ十月二十一日以来連日非公式會議  
ニ於テ審議中ナル処英仏ノ意見容易ニ纏ラズ仏国側ハ「モ  
ラトリューム」ヲ考量スルニ先立チ有効ナル財政監督ヲ絶  
對条件トシ英國側ト雖モ監督ノ必要ハ主義ニ於テハ異存ナ  
キモ独逸政府ノ認諾ヲ得ルモノニ非ザレバ有効ナル結果ヲ  
収メザルベシト主張シ結局委員會ハ独逸政府ノ意嚮並現狀  
ヲ踏査スル為伯林行ヲ決議シ来ル二十九日出発スルコトト  
ナレリ

二一八 十月二十七日 在独国松原臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

馬克暴落ニ伴フ独逸經濟ノ推移等ニ関シ英國

大使トノ會談報告ノ件

第二八一号 (十月二十八日接受)

財政通ノ評アル英國大使トノ談話左ノ通

此頃独逸人ハ逢フ人毎ニ来ルベキ冬ニ於ケル独逸ノ窮狀ヲ  
口ニセザル者ナク中ニハ不穩ナル事故ノ發生ヲモ予期スル

ナリ尚馬克下落ノ為独国ノ商工業ハ一時外観上ノ盛況ヲ呈  
スルモ其永續セザルハ注射後ニ於テ人体ノ衰弱スルニ異ラ  
ズ但独逸側石炭欠乏ヲ慫フルハ事實ヲ誣フルモノナリト  
猶同大使ハ「ブラッセル」會議ニ就キ余リ多クヲ語ラズ唯  
其独逸及聯合國ニ對シ利益ヲ齎スベキヲ希望スト述ベ又米  
国ニ就キテハ来ルベキ總選舉ニ於テ歐洲ニ對シ其財囊ノ口  
ヲ緩ムルコトアルベキヲ予想シ居レリ

終ニ「ウルクアルト」契約ニ言及スルヤ同大使ハ右契約ニ  
對スル露国ノ態度ヲ以テ一ハ最近国内極端派ノ抬頭セルト  
一ハ之ヲ承認問題ニ利用シ殊ニ近東問題ニ関シ英國ニ對シ  
圧力ヲ加ヘムトスルトニ由ルモノトナシ(往電第二三九号  
参照)露国ノ對外態度ハ一体ニ他ヲ翻弄セムトスルモノノ  
如ク右態度ニシテ改マザル限り露国ハ手ノ著ケ様ナシト語  
レリ

英仏ヘ郵送セリ

二一九 十一月十日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

馬克安定ニ関スル賠償委員會ト独国政府トノ

折衝ニ関スル件

二一 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 二一九

二五六

モノアリ之ニ加フルニ外國人中ニモ現ニ最近「タイムズ」通  
信員ノ如キ独逸ハ速ニ少クモ二箇年ノ支払猶予ヲ惠マルル  
ニ非ザレバ「クリスマス」迄ニハ壞地利ト同一ノ運命ニ陥  
ルベシト云フガ如キ說ヲ為スモノアリ右ニ對スル貴見如何  
トノ問ニ對シ同大使ハ實際独国ノ狀態ハ serious ナリ馬克  
ノ暴落ニシテ此勢ヲ続クル以上壞地利ノ運命ニ近寄リツツ  
アルガ如シ之ガ救済ニハ内外債ノ改革ヲ要ス目下独国政府  
ガ外國銀行家ヲ招待シテ馬克ヲ「スタビライズ」スル方策  
ヲ考究スルコトト為シタルハ利巧ナリト此ノ時本官ハ来週  
当地ニ来ルヘキ賠償委員ノコトニ言及スルヤ同大使ハ語ヲ  
繼イテ曰ク右委員ノ来伯ハ何等カノ利益ヲ齎スヤモ知レザ  
ルガ齎スベシトハ云ヘズ抑モ独国ニ取り不穩事故ノ有無ノ  
如キハ第二ノ問題ニシテ要ハ馬克ノ「スタビリゼーション」  
ニ在リ最近ノ外國貨取引取締令(往電第二七三号)ノ如キ  
ハ何等之ニ裨益スルトコロナシ馬克ノ暴落ノ理由ハ其増発  
ヲ余儀ナクセシムル原因ハ固ヨリ賠償問題ニ在ルベク独国  
財政策ノ欠陥ニモ由ルヘク一々之ヲ列举シ難シ如何ナル点  
ニ馬克ヲ「スタビライズ」スルカニ就キ自分ハ現在ノ程度  
(一弗ニ付四千馬克位)ヲ可能ト信ズ急激ノ引戻ハ不可能

第七五五号 (十一月十一日接受)

賠案第三三三号

第一、賠償委員會伯林行ト殆ト時ヲ同ジウシテ独逸政府ハ  
Keynes, Brandt (英) Jenks (米) Cassep (瑞典) Dubois  
(瑞西) Vissering (和蘭) 等ノ財政専門家ヲ招待シ馬克相  
場安定其他財政改革ニ付意見ヲ求メツツアリ Jenks 等ハ  
五億金貨馬克ノ外債ヲ發行シテ馬克ノ安定ヲ図ル考案ヲ提  
出シタリトノ事ナレドモ専門家ノ意見容易ニ一致セズト伝  
ヘラル

第二、又賠償委員會ハ専ラ独逸当局ト折衝ヲ重ネ居レドモ  
要領ヲ得ザル為六日附ヲ以テ

一、本年五月独逸政府ノ承認セル予算ノ均衡其他ニ関スル  
財政監督ニ付更ニ同政府ノ注意ヲ喚起スル事

二、馬克相場安定及予算ノ均衡ニ関スル独逸政府ノ明確ナ  
ル提案ヲ要求スル事殊ニ五億金馬克外債募集案ニ関シテハ  
同政府自ラ其ノ細目ヲ提出スル事

ニ付確タル書面回答ヲ求メ居レドモ交渉ノ結果ニ就テハ大  
ナル期待ヲ有セズ今週中ニハ帰巴スルニ至ル可シト風評ア  
リ而シテ委員會ハ今回ノ訪問ヲ機トシテ石炭竝木材等ノ実

二 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二〇 二二二

物引渡ニ付独逸政府ノ確タル決定ヲ要求シ居レリ本邦ハ右伯林行ノ事項ニ関シ出席ノ權利無ク又何等要求アリタルニ非ザレドモ将来ノ會議ニ備フル為予メ山路ヲ派遣シ置キタリ

第三、武府會議ハ十二月初旬開催セラル可シトノ事新聞紙ニ喧伝セラルル処本邦副委員ガ白国代表部ヲ通ジ武府政府ニ確メタル所ニ依レバ同政府ハ未ダ何等具体的決定ヲ為サズ賠償委員會ノ帰巴ヲ待チ其ノ結果如何ニ依リ右會議開催ノ運ビニ至ル可キモ白国首相ノ希望トシテハ予メ倫敦巴里ヲ夫々訪問兩國首相ニ会見シ出来得ベクムバ伊国政府トモ意見ノ交換ヲ為シタル上會議ノ大体方針ヲ考究ス可シト英、独、白へ転電セリ

二二〇 十一月十一日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

馬克安定及財政改革ニ関スル賠償委員會會質問  
ニ対スル独国政府回答ノ件

第七六一号

（十一月十二日接受）

賠実第三三四号

賠実第三三三三号ノ第二ノ賠償委員會質問ニ対シ独逸政府ハ

二五八

専門家ノ報告完成ヲ俟チ其一案ヲ採用シハ日附ヲ以テ一、財政改革（同号第二ノ一）ニ関シテ独逸政府ハ七月担保委員會ト協定シタル事項実施ニ関シテ既ニ全力ヲ尽シ居レリ

二、馬克相場安定（同号第二ノ二）ハ今日最モ火急ナル問題ニシテ先ツ有力ナル外国資本団体並帝國銀行ヨリ成ル為替調節機關ヲ設置シ同時ニ五億金馬克以上ノ借款ヲ起シ帝國銀行ヨリモ同額ヲ提供シテ其資金トナシ右機關ハ之ヲ以テ紙幣馬克、外国貨幣ノ売買ヲ為シ以テ馬克相場ノ安定ヲ計ルヘシ然レトモ右調節策ハ之カ実施期間中条約ニ基ク義務履行ノ中断セラルコトヲ絶対ノ条件トス

三、前記ノ条件賠償委員會ニ容レラルルニ於テハ独逸政府ハ予算ノ均衡並流動公債ノ制限ヲ實現シ得ヘシトノ回答ヲ交付シ賠償委員會ハ之ヲ以テ伯林交渉ヲ打切り土曜帰巴來週ヨリ今後ノ対策ヲ協議スル段取トナリ居レリ

英、独、白へ転電セリ

二二一 十一月十六日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

馬克安定ニ関スル独国ノ新提案ニ関シ報告ノ件

第七七八号

（十一月十七日接受）

賠実第三三五号

第一、賠償委員會ハ前電末段予定ノ如ク十一日帰巴シ今後ノ態度ヲ決スヘキ処伯林ニ於ケル独逸提案ハ重ヲ措クニ足ラズ一方英伊兩國内閣創立後日淺ク其政策決定セザル此際急遽委員會ノ決定ヲ為スコトハ余リニ責任ヲ取り過グル嫌アリシヲ以テ各国委員ハ本国政府ニ対シ伯林行報告ヲ為スト共ニ其意向ヲ徴シツツアリ

第二、一方独逸政府ハ専門家ノ第二ノ報告ヲ接手シ之ニ基キ十四日賠償委員會ニ新提案ヲ齎ラシ先ツ馬克安定策ニ関シ前号既報ノ趣旨ヲ繰返シタル後次ノ事項ヲ同委員會ニ要求シ來レリ

一、速ニ条約義務ノ金額ヲ改訂シ予算ノ歳入超過ヲ以テ支弁シ得ル範圍ニ決定スヘシ

二、三年乃至四年ニ亘ル条約義務履行ノ免除但荒廢地復旧ニ関スル現物引渡ハ之ニ依リ流動公債ヲ増額セザル範圍ニ於テ引続キ履行セラルヘシ

三、独逸ニ与ヘラルベキ銀行信用問題ヲ審議スル為メ速ニ國際財政會議ヲ召集スヘシ

一一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二三

四、一度馬克相場安定ノ傾向ニ進ミシ際ハ現在各国ニ存在スル独逸産品輸入ニ関スル制限規定ヲ撤廃スヘク独逸ハ

經濟政策ノ範圍ニ於テ列國ト均等ノ權利ヲ享有シ殊ニ占領地ニ於ケル經濟的行政權ヲ回復シ自ラ其商業「バランス」ヲ均衡スルノ地位ニ置カル可シ

右ノ目的ノ為メ独逸ノ将来提出スヘキ計画ニ対シ賠償委員會ノ援助ヲ求ム

第三、同委員會ハ非公式會合ニ於テ右新案ヲ審議シツツアル際「ウィルト」内閣辭職ノ報アリ旁々世上伝フルカ如ク急速ニ委員會ノ決定ヲ見ルコトハ目下ノ所不可能ナルヘシ第四、白国首相ハ十八日巴里來訪ノ報道アリタルガ仏首相ハ議會ニ於ケル予算ノ現状及賠償ニ関スル宣明ヲ差控居ルト「ローザンヌ」會議ノ為メ多忙タルトニ依リ延期ヲ申入レタリト伝ヘラル

英、独、白へ転電セリ

二二三 十一月二十五日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

独逸貸方總金額報告ノ件

第八〇二号 （十一月二十六日接受）

二五九

賠実第三三七号

貴電第五七九号ニ関シ

第一、独逸貨方総金額ハ賠実第一九六号末段決議当時地位不明ノ船舶アリシ為更ニ本年三月ノ決議ニ依リ更正増額セラレ最近(本年七月作成)ノ賠償委員会計算部報告ニ依レハ左ノ通り

一、総貸記額七四九、四五八、〇〇〇金貨馬克

二、修繕費、引渡費等ノ控除額八九、五九〇、九二二金貨馬克

三、純貸記額六五九、八六七、〇七八金貨馬克但右二ノ控除額ハ一九二一年一月十日ノ相場ニ依リ磅ヨリ金貨馬克ニ換算シタルモノナレトモ計算未了ニシテ概数ニ過キス從ツテ純貸記額モ又不確定ノモノナリ(本年十月大蔵大臣宛賠計第四号参照)

且貴電中独逸貸記額ハ総額トシテ決セラレシモノナルヲ以テ各船舶ニ計算セラルル事ナシ

第二、次キニ本邦借記額ハ賠実第二四三号所載ノ分ハ當時特ニ英國船舶省ニ依頼シテ得タル概数ニシテ賠償委員会ノ計算上明カナリシ処其後更正ノ結果前記第一ト同シ計

算部ノ報告ニ依レハ

Cap. finisene(?) 三、四八七、九四九、六九 金貨馬克

Kleist 八五八、五一〇、〇八

Mecklenburg 二四一、三〇五、四七

Wettrain 一、六二九、一〇四、七七

Briefed 四三三、五六九、〇一

Normania 三二七、〇二八、〇〇

白国讓渡船舶ニ関スル分一八五、二七〇、九四金貨馬克合計七、一五九、七三八、〇五金貨馬克

修繕費ノ控除金額九五九、三四七金貨馬克

總借記額六、二〇〇、三九一、〇五金貨馬克

右計算方法ハ賠実第二四二号所報ノ如ク既ニ金貨馬克ヲ以テ表示セラレシ英國船舶ヲ採用セシ結果磅ヲ以テ表示セラレシコトナシ

尚ホ英國船舶算出ニ際シテハ引渡ノ月及売却ノ月ノ内時期遅キモノヲ取其平均相場ヲ以テ磅ヲ金貨馬克ニ換算セリ但控除金額ノ換算率ハ前記第一ノ場合ト同シ

第三、次キニ第一ト第二トノ關係ニ付第一ノ純貸記額ト第二ノ方法ニ依リ算出セラレシ各國ノ純借記總額(概数二

六九、一六六、四〇一、八四金貨馬克)トノ差額即チ三

九〇、七〇〇、六七六、一六金貨馬克ハ本年三月大蔵大

臣協定第一二条ニ依リ決済セラル可キモノナルカ之ヲ如何ニ各國間ニ分配ス可キヤノ具体案ハ未決ニシテ目下賠償委員会ノ審議ヲ待チツツアリ

尚賠償委員会當局ノ談ニ依レハ本電計數ハ凡ヘテ未確定ノモノナレトモ今後ノ變更ハ大ナラスト總貸記上ノ計數ハ總ヘテ一九二一年五月一日以前引渡シノ船舶ニ関シ其以後ノ分ハ之ヲ含マス

右計算ノ詳細ニ関シテハ本年九月公第五八九号ヲ以テ外務大臣宛送付賠償支払計算書御參考アリタシ

二二三 十一月三十日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独国委員会ヨリ聯合國側賠償委員会ニ対シ旧

内閣提案ノ承認方ヲ要望シタル件

第八一五号 (十二月一日接受)

賠実第三三九号

賠実第三三五号第三ニ関シ

二十七日附 Kriegslasten Kommission ハ独逸政府ノ命ニ

一一 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二三 二三四

依リ賠償委員会ニ対シ大要左ノ書翰ヲ送レリ

独逸新宰相「クノー」ハ本月二十四日議會ニ於ケル其政策聲明中新内閣ハ本月十四日附内閣ノ提案ヲ示シ之ガ實現ニ努ムル旨ヲ言明セリ依テ独逸政府ハ賠償委員会ガ一日モ速カニ右提案ヲ承認セムコトヲ望ム

賠償委員会ハ四国首相會合ノ計画ニ鑑ミ右ニ對シ當分決定ヲ差控フル趣

英、独、勞山ヘ転電セリ

二二四 十二月七日 在獨国日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独国新内閣ノ賠償問題ニ對スル態度報告ノ件

第三〇四号 (十二月九日接受)

前内閣ノ末期ニ於テ「ウィルト」ノ所謂条約義務履行政策カ行詰リトナリタルニ顧ミ新内閣トシテハ賠償問題ニ付表面殊ニ对内政策上十一月十三日ノ賠償委員会ニ對スル前内閣ノ通牒ヲ引継キ実行ニカムヘキ旨ヲ唱ヘツツアルモ内実何等カ右問題ニ對スル發展ヲ試ミザルベカラザル破目ニアリ世人モ亦此処ニ期待スル模様アリテ宰相自身モ數日前新聞記者大会ニ於テ新内閣ハ就任以來日猶ホ浅キモ決シテ手

ヲ拱キ徒ニ他人ノ同情ヲ待チ居ルモノニアラズト語レリ夫レカアラヌカ昨今伝フル所ニ拠レバ数日米政府ハ荐ニ実業界有力者ト密議ヲ凝ラシ居ル由ニテ右ハ一方賠償義務ノ範圍ヲ事実独逸ガ支払ヒ得ル程度ニ切下グルト同時ニ他方聯合國殊ニ仏國ニ對シ或種ノ方法ニ依リ短キ期間内ニ相当ノ金額ヲ支払フコトヲ主眼トスルモノノ如ク尙客月中賠償委員會会當地滞在中当國実業界トノ間ニ内密ニ行ハレタル由ナル外国借款談即チ二百億金貨馬克ノ外国借款ヲ起シ独國実業家ニ於テ之ガ保証ニ立チ(又ハ利子引受)該借款ノ一部ヲ馬克安定ニ利用スル外他ノ一部ハ之ヲ賠償支払ニ充ツルノ議アリタルハ政府今回ノ計画ト何等カ因縁ナシトスルモ以テ現今ニ於ケル当國実業界輿論ノ趨勢ヲ表示スルモノト觀測セラル

英、仏、「ローザンヌ」ヘ転電セリ

二二五 十二月七日

在独國日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル独國首相談話報告ノ件

第三〇五号

(十二月十日接受)

往電第三〇四号ニ関シ

トノ新聞報ニ付譯報者ノ内報報告ノ件

第三〇九号

(十二月二十六日接受)

一、往電第三〇四号及大臣発在英大使宛第四〇三号ニ関スル英回電ニ関シ

独逸政府ハ巴里會議前更ニ新提案ヲ為ス積リニテ実業界ノ有力者及政党各首領ト協議中ナリシガ昨今略成案ヲ見タル旨新聞紙上ニ伝ヘラルル処当館譯報者ノ内報ニ依レバ政府ハ今尙各方面ト交渉中ナルガ所謂新案ハ大体倫敦會議中「サー、ジョーン、ブラッドバリー」ガ「ベルグマン」ニ内示シタル試案ヲ基礎トシタルモノニシテ(一)独逸ハ一九二六年迄「モラトリウム」ヲ許与セラルルコト(二)一九二六年以後ハ一年十二億宛(現金四億物品八億)ヲ支払フコト(三)但シ「モラトリウム」中内外債ヲ募集シ其ノ一部ヲ自國財政整理ニ宛テ他ノ一部ヲ以テ賠償支払ニ充ツルコトヲ得(四)「ジュッセルドルフ」外二地ノ撤兵、萊因占領軍ノ大削減ニ通商上ノ均等待遇ヲ考慮スルニアリト

二、惟フニ「クノー」内閣ハ此ノ際何等カ具体的成案ヲ立テテ賠償問題ノ根本的解決ヲ為スノ意見有ルモ一方「スチ

二一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二七

十二月七日日本使宰相ヲ訪問シタル際宰相ハ左ノ通語レリ現下ノ重大ナル時局ニ際シ惟賠償支払不能ヲ繰返ス丈ニテハ毫モ事態ノ改善ヲ見ザルベキニ依リ独逸政府ハ今回之ガ判然タル解決ヲ得ムトノ決心ヲ以テ具体案ヲ攻究中ニシテ場合ニ依リテハ仏國ト直接交渉ヲ開クコトモアルベキニ依リ帝國政府ニ於テモ右問題ノ解決ニ對シ何分ノ援助ヲ与ヘラレムコトヲ希望スト語レリ亦同電後段賠償委員會会當地滞在中実業家トノ間ニ行ハレタリト称セラルル談話ノ件ニ関シ宰相ハ責任アル政治家又ハ実業家ガ賠償委員トノ間ニ談話ヲ為シタリトハ信ゼズ又此際二百億金貨馬克ノ外国借款談ノ如キ中々困難ナルベキモ何等カ実行シ得ベキ此種提案ヲ見出サム覺悟ナリト語リ仏軍ノ占領擴張説ニ對シ宰相ハ右ハ「ポアンカレ」ノ一存ニテ実行スル訳ニモ行カザルベク且彼ニ於テモ何処迄モ其ノ所言ヲ実行セズトモ止ミ得ル事情ヲ發見スルコト無キニシモ非ザルベシ云々ト

英、仏、「ローザンヌ」ヘ転電セリ

二二六 十二月二十五日

在独國日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独國新内閣ガ賠償問題ニ関スル新提案協議中

ンネス」等重工業ニ屬スル一派ハ政府案ニ反對シ居ル趣ナレバ果シテ今回根本的解決案ノ提出ヲ見ル運ビトナルヤ否ヤ未ダ予測シ難シ

三、尚倫敦會議ニ附随シテ米國ガ進デ歐洲復興ニ干涉セムトスルヤノ報道一時盛ニ伝ヘラレタル処右ハ主トシテ英國側ノ宣伝ニ依リタルモノナルヤニ内聞セリ

英米仏及「ローザンヌ」ヘ転電セリ

二二七 十二月二十五日

在仏國奧山臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

仏國ノ对独賠償問題処理方針ニ関スル諸情報  
報告ノ件

第八六三号

(十二月二十六日接受)

仏國政府ハ十二月二十四日日曜ニモ拘ラズ大統領主宰ノ下ニ首相以下工部、大蔵、荒廢地各大臣及賠償委員會議長並萊因地方仏國高級委員、外務省通商局長、工部省鉱山局長其他大蔵省財政専門家ヨリ成ル重要會議ヲ開キ賠償問題及保障方法ニ就キ凝議シタルガ其内容ハ発表セラレザルモ譯報者其他消息通ノ情報ヲ綜合スルニ元来「ミルラン」大統領ハ对独制裁ニ就キ強硬ノ意見ヲ有シ既ニ久シキ以前ヨリ

二一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二八

「ルール」地方占領ヲ懲罰シ居レルモ「ポアンカレ」ハ英國ノ態度並議會内昨今ノ形勢ニ鑑ミ俄ニ断乎タル措置ニ出ヅルヲ躊躇シ從來言ヲ盛ニシテ対独強硬ノ態度ヲ示シ動モスレバ「ルール」地域ノ軍事の占領ヲモ敢テ仕兼間敷形勢ヲ示シ来タレルニ拘ラズ一方英國政府ガ軍事の占領ニハ断ジテ同意スルノ意向ナク而モ「ボナーロー」氏内閣ニ至リ稍仏國ノ立場ニ同情ヲ表シ同地方ニ於ケル經濟的監理ニハ同意セントスルノ傾向アルト同時ニ他方仏國議會内ニ於テモ軍事の占領ヲ懲罰スルハ極右党ノ一派ニ限ラレ左党ヲ始メ議員ノ大多數ハ且下財政困窮ノ状態ノ下ニ更ニ多數ノ費用ヲ要スル軍事の行動ニ出ヅルハ財政上ノミナラズ一般經濟界（法ノ下落ヲ含ム）ノ到底耐ユル所ニ非ザルヲ以テ之ニ反対シ唯萊因地方ノ産業の占領ヲ以テ満足セントスルモノノ如ク過日下院ニ於ケル政府信任投票（往電第八四七号）モ「ポアンカレ」氏ガ対独保障ノタメ出兵スルコトナカルベキ旨ヲ声明セルコト与ッテ力アリタルモノト觀測セラレ居レリ旁々「ポアンカレ」内閣ハ曩ニ期待セラレ居タル軍事の占領ノ計画ヲ緩和シ萊因左岸及「ルール」地方ノ税関管理及「ルール」地域炭坑管理ヲ實現シ之ガ治安又ハ管理保護ニ要ス

二六四

ル兵力ハ現在萊因占領軍ノ中ヨリ間ニ合セ万一出来事生ゼザル限り特ニ出兵ヲナサザル見込ニテ大体之ヲ来月二日ノ首相會議ニ提議シ其同意ヲ得ザルトキハ単独ニテ右ノ措置ヲ断行スルコトニ腹ヲ極メタルモノノ如ク觀察セラレ居レリ 在欧米各大使、「ローザンヌ」ヘ転電セリ

二二八 十二月二十八日 在仏國奧山臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

仏國ノ賠償問題対策ニ関スル情報及觀測報告  
ノ件

第八六七号 （十二月二十九日接受）

在英代理大使宛大臣宛電報第七四八号前段米國政府ガ仏國政府ニ対シ何等カ申入ルル所アリタル云々ニ関シ「ジェエロ」ガ若杉ニ内話スル所ニ依レバ十二月十四日在米仏國大使ガ國務卿ニ會見ノ際「ヒューズ」氏ハ仏國ガ「ルール」占領ヲ行フニ於テハ米國ノ輿論ハ仏國ハ領土併合ノ野心ヲ有スルモノトシテ反感ヲ醸スニ至ルベク歐洲ノ時局ヲ救済スルニハ銀行専門家ノ會議ヲ催シ之ヲシテ独逸賠償債務總額ヲ實際独逸ヨリ取立得ヘキ金額ニ決定セシムルノ外ナカルベシト述べタルニヨリ「デュスラン」氏ハ之ヲ仏國政府

ニ電報シタルヲ以テ政府ハ閣議ノ上同十八日同大使ヲシテ國務卿ニ対シ右ハ米國政府ノ提議ナルヤ否ヲ確メシメタル処「ヒューズ」氏ハ右同様ノ說ヲ繰返シタルモ之レ単ニ同氏ノ「サゼッション」又ハ「ヒント」ニ過ギズシテ何等提議ト云フ程ノモノニアラザルコト明白ナルニ至レルヲ以テ仏國政府ハ數日前更ニ「デュスラン」氏ヲシテ「ヒューズ」氏ニ対シ仏國ハ何等「ルール」占領ニヨリ領土の野心ヲ有スルモノニアラザル旨ヲ説明セシメタル経緯アリシ趣ナリ尚「ジェエロー」ガ其筋ヨリ得タル情報ニ依レバ伊太利ハ既ニ「ルール」地方ノ炭坑森林及税関ノ管理ニ関スル仏國側ノ主張ニ同意ヲ表シ来レル由ナルヲ以テ来月二日ノ首相會議ニ於ケル仏國ノ立場ハ比較的容易ナルベク万一英仏意見ノ一致ヲ見ザル場合ニハ仏國ハ賠償委員會ヲシテ独逸ノ要求ニ係ル仕払猶予ノ諾否ヲ決セシメ若シ委員會ガ仕払猶予ヲ拒絕スルトキハ一月十五日ノ仕払期日ヲ俟テ往電第八六三号ノ如キ措置ニ出ヅベク若シ又万一仕払猶予ヲ許諾スルガ如キ場合ニハ単独行動ヲ開始スルニ至ルベキモ直ニ之ヲ行フベキヤ又ハ一月十五日ヲ俟ツベキヤハ「ポアンカレ」氏自身モ未ダ決心シ居ラザルガ如ク何レニシテモ仏國政府

ハ賠実第三四一号賠償委員會ノ決議ハ単ニ材木引渡ニ関スル独逸ノ不履行ヲ通告スルニ過ギザルヲ以テ之ヲ以テ直ニ平和条約第八編附屬条項第二十八項ノ適用ヲナサムトスルニハ躊躇スルモノノ如シ御參考迄 在欧米各大使「ローザンヌ」ヘ転電セリ

附 独露兩國間ラパロ協定關係一件

二二九 四月十八日 在独國日置大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

ラパロ独露協定ニ関スルウォルフ通信社発表

ニ付報告ノ件

附記 独露兩國間ラパロ協定独文寫

第九一号 （四月二十日接受）

十六日「ラパロ」ニ於テ「ラテナウ」ト「チチュリン」トノ間ニ締結セラレタル独露条約（六箇条ヨリ成ル）内容ハ十八日当地ニ於テ発表セラレタルガ右内容ハ在「ゼノア」全權ヨリ電報濟ミノ事ト信ズルニ付此処ニ之ヲ略ス該条約ニ関シ Wolffガ十四日附「ゼノア」通信トシテ発表スル所左ノ通り曰ク今回締結ノ条約ハ兩國政府間ニ過去ヲ忘レ一意將來ノ為復興事業ニ協力センコトヲ期スルニ在リ該条約ハ全然相

二一 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 二二九

二六五